

二ツ川旧河川堤防遺跡

— 福岡県柳川市三橋町下百町所在遺跡の調査 —

柳川市文化財調査報告書 第16集

2023

柳川市教育委員会

二ツ川旧河川堤防遺跡

— 福岡県柳川市三橋町下百町所在遺跡の調査 —

柳川市文化財調査報告書 第16集

序

筑後川と矢部川が有明海に注ぐ筑後平野南西部に位置する柳川市は、柳川藩十一万石の城下町であり、詩人北原白秋の詩歌の母胎となった水郷都市です。

この度報告いたします二ツ川旧河川堤防遺跡は、近世から近代にかけての河川堤防遺跡です。令和3年に一級河川矢部川水系二ツ川の河川護岸整備計画に伴い、柳川市教育委員会が発掘調査を実施いたしました。その結果、河川護岸に関連する土木構造物を確認し、出土した近現代陶磁器や瓦、土製品、銅貨、ガラス製品等と合わせて近代の二ツ川河川堤防の変遷を明らかにする手がかりとなりました。

本報告が今後の調査研究に寄与すると共に、埋蔵文化財に対する理解を深め、文化財保護に対する取り組みの一助となることを願います。

最後に、今回の調査にご理解、ご協力を頂きました地元の皆様をはじめ、調査にあたりご助言を賜りました皆様、発掘調査に従事して頂きました皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和5年3月31日

柳川市教育委員会
教育長 沖 毅

例 言

1. 本書は一級河川矢部川水系二ツ川の河川護岸整備計画に伴い、福岡県南筑後県土整備事務所より柳川市教育委員会が委託を受けて発掘調査を実施した、柳川市三橋町下百町所在の二ツ川旧河川堤防遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は柳川市教育委員会が事業主体となり、柳川市教育委員会生涯学習課の堤伴治が調査を担当した。
3. 発掘調査における基準杭設置は(株)埋蔵文化財サポートシステム福岡支店が、遺構写真測量は、(株)とっぺんが行った。遺構実測図の作成は堤、橋本清美、牧之角健太が、遺物実測図の作成は、西美智代、野口宏美、大津幸代、石井朝子、牧之角が行った。
4. 本書に掲載した空中写真撮影は(有)空中写真企画が、遺構写真撮影は橋本が、遺物写真撮影は牧之角が行った。また、遺物写真撮影の一部を(株)九州文化財研究所が行った。
5. 遺物の整理復元、遺物、遺構の製図は西、野口、大津、石井、牧之角が行い、遺物製図作成の一部は(株)九州文化財研究所が行った。
6. 出土遺物、写真、実測図は全て柳川市教育委員会において保管している。
7. 本書の執筆、編集は橋本、牧之角が行った。
8. 出土陶磁器の整理については、九州歴史資料館の遠藤啓介氏から助言を受けた。

本文目次

I はじめに	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査組織	1
II 位置と環境	3
III 調査の内容	5
1 検出遺構	7
IV 総括	26

図版目次

図版1	1. ニッ川旧河川堤防遺跡遠景（西から） 2. ニッ川旧河川堤防遺跡遠景（北から）
図版2	1. ニッ川旧河川堤防遺跡遠景（東から） 2. ニッ川旧河川堤防遺跡遺構完掘状況（真上から）
図版3	1. 東側壁面土層堆積状況（西から） 2. S-1 完掘状況（南西から）
図版4	1. S-1 完掘状況（南から） 2. S-2 完掘状況（北西から）
図版5	1. S-2 完掘状況（南から） 2. 1、3、4 トレンチ完掘状況（南西から）
図版6	出土遺物①
図版7	出土遺物②
図版8	出土遺物③
図版9	出土遺物④

挿 図 目 次

第1図	柳川市位置図	1
第2図	周辺遺跡分布図 (1/25,000)	3
第3図	調査区位置図 (1/2,500)	4
第4図	二ツ川旧河川堤防遺跡遺構配置図 (1/60)	5
第5図	二ツ川旧河川堤防遺跡1トレンチ東側壁面土層図 (1/10)	6
第6図	S-1 出土遺物実測図① (1/3)	8
第7図	S-1 出土遺物実測図② (30は1/4、他は1/3)	9
第8図	S-1 出土遺物実測図③ (32・33・35は1/4、他は1/3)	10
第9図	S-1 出土遺物実測図④ (1/4)	11
第10図	S-2 出土遺物実測図① (1/3)	13
第11図	S-2 出土遺物実測図② (1/3)	14
第12図	S-2 出土遺物実測図③ (1/3)	16
第13図	S-2 出土遺物実測図④ (1/3)	17
第14図	S-2 出土遺物実測図⑤ (1/3)	19
第15図	S-2 出土遺物実測図⑥ (127は1/4、他は1/3)	20
第16図	S-2 出土遺物実測図⑦ (1/3)	22
第17図	S-2 出土遺物実測図⑧ (150～153は1/4、他は1/3)	23
第18図	S-2 出土遺物実測図⑨ (163・165～169は1/4、他は1/3)	24

表 目 次

表1	出土遺物観察表	28～36
----	---------	-------

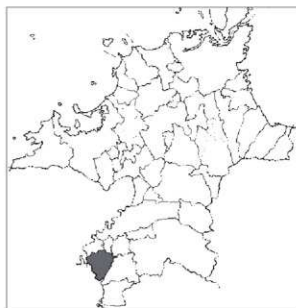
I はじめに

1. 調査に至る経緯

福岡県柳川市は、筑後川と矢部川に挟まれた筑後平野の南西に位置する、人口約63,000人、面積76.88km²の地方都市である。市南部には近世以前から戦後までに造られた広大な干拓地が広がる他、本市を含む筑後平野南部一帯には、水田の灌漑水用の水路が網のように巡り独特の景観を形成している。

今回、一級河川矢部川水系二ツ川の河川護岸整備計画に伴い、福岡県南筑後県土整備事務所から柳川市教育委員会に令和2年1月6日付で文書により埋蔵文化財の有無について照会を受けた。柳川市教育委員会が令和2年1月17日に遺跡の所在確認を目的とする試掘調査を行った結果、二ツ川の旧堤防遺構が確認されたため、

令和2年2月21日付で福岡県教育委員会宛てに遺跡発見の通知を行い、令和2年2月26日付で二ツ川旧河川堤防遺跡が周知の埋蔵文化財包蔵地の決定を受けた。このことを受けて、福岡県南筑後県土整備事務所と柳川市教育委員会との間で記録保存を目的とする発掘調査の実施について協議を行い、開発予定地のうち遺構が存在する区域について発掘調査を行うこと、調査費用は原因者で負担することを合意し、文化財保護法による手続きを経て令和3年3月1日に福岡県南筑後県土整備事務所と柳川市との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。



第1図 柳川市位置図

2. 調査組織

発掘調査及び報告書作成の関係者は次のとおりである。

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
総括 柳川市教育委員会	教育長	沖 毅	沖 毅	沖 毅
	教育部長	袖崎 朋洋	袖崎 朋洋	袖崎 朋洋
	生涯学習課長	新聞 文隆	新聞 文隆	新聞 文隆
	生涯学習課長補佐	野田 学	三小田祐輔	田中 規之
	文化財保護係長	高口 祐介	三小田祐輔	田中 規之
	文化財保護係	堤 伴治	堤 伴治	橋本 清美
		橋本 清美	橋本 清美	川嶋 大輝
		牧之角健太	牧之角健太	牧之角健太
会計年度任用職員		大場 宗章	原田 昌宏	田尻 英樹
福岡県南筑後県土整備事務所 所長				

なお、発掘調査及び報告書作成の期間中、大変多くの方のご指導、ご協力をいただきました。以下に記し、感謝の意を表します。(順不同、敬称略)

西健一郎(柳川市文化財専門委員会)、大庭孝夫、坂元雄紀(以上、福岡県教育庁教育総務部文化財保護課)、中村渉(大牟田市教育委員会)、大津諒太(うきは市教育委員会)、白石直樹(柳川古文書館)、遠藤啓介(九州歴史資料館)

また、開発工事に伴う試掘調査及び発掘調査の実施にあたり西日本鉄道株式会社より多大なご協力をいただきました。重ねて感謝の意を表します。

Ⅱ 位置と環境

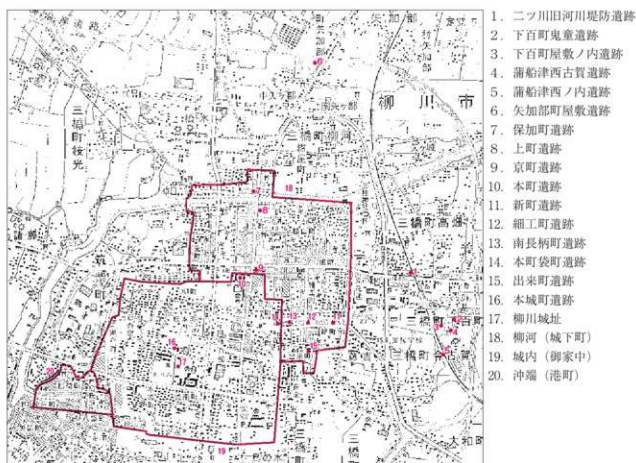
二ツ川旧河川堤防遺跡は柳川市の中心市街地の隣接地に所在する。遺跡は一級河川矢部川水系二ツ川左岸の沖積低地（標高3.2m）に位置する旧河川堤防の遺跡である。

本遺跡が所在する福岡県柳川市は筑後平野南西部の有明海北縁にあたり、西を筑後川、東を矢部川に挟まれた三角州に立地し、標高0～5m程度の平坦な低平地である。柳川市に面する有明海は干満差の激しい国内有数の干潟を有し、沿岸部には干拓地が広がる。柳川城の城郭を形成する城堀は、城下町の東辺にある3ヶ所の水門から二ツ川の水を取水して水路で繋ぎ、さらに城堀の南岸に複数の取水口を備え、二ツ河から市南部の宮永地区及び両開地区に再分配するための中盤施設の役割を果たす。

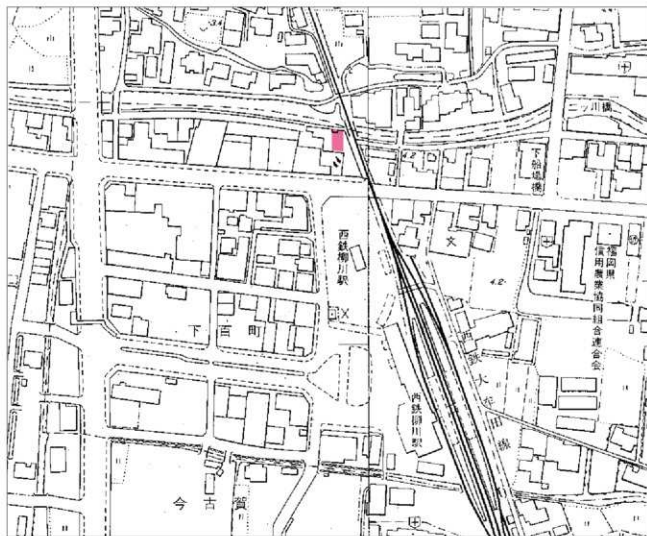
天正15（1587）年、立花宗茂が柳川城に入り、三藩・下妻・山門の三郡を支配した。慶長5（1600）年に関ヶ原の戦いで西軍に与した宗茂が改易されると、田中吉政が筑後国の領主として柳川城に入る。しかし2代忠政に後嗣が無く、断絶改易となった。そして元和6（1620）年、立花宗茂が再封され、以後幕末まで立花氏の支配が続いた。

近世柳川城下の構造は地理的な関係から、柳川城を中核に武家が集中する「城内」と通称される地区と、町人が主に居住した「沖端町」と「柳河町」の三地区に大別することができる。

本遺跡は河川整備計画に伴い令和2（2020）年に実施した試掘調査の結果、現地表面下約40cmで



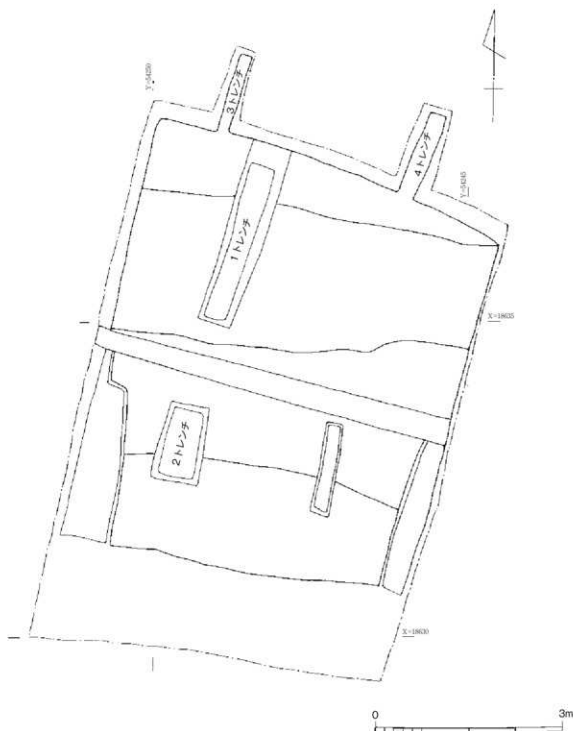
第2図 周辺遺跡分布図（1/25,000）



第3図 調査区位置図 (1/2,500)

断面が台形を呈する堤状の土木構造物の遺構を検出した。河川に並行し、かつ極めて接近する配置状況から、二ッ川堤防の遺構であると判断した遺跡である。

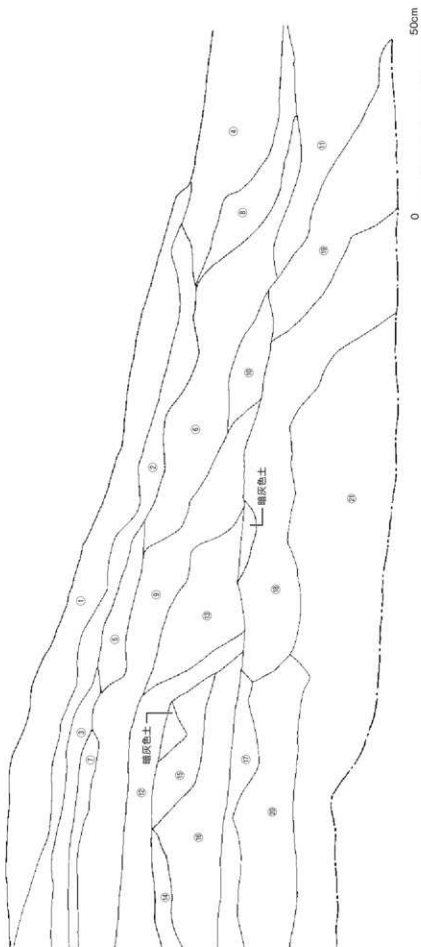
遺跡の所在地付近は、近世柳川城から旧薩摩街道上庄宿に向かう旧瀬高往還が二ッ川河川堤防と重複する区間にあたることから、本遺構上端部の硬化面は、旧瀬高往還に伴う道路敷の遺構である可能性が考えられる。



第4図 ニツ川旧河川堤防遺跡遺構配置図 (1/60)

Ⅲ 調査の内容

ニツ川旧河川堤防遺跡の発掘調査は、令和3年3月9日から重機による表土掘削を開始した。調査にあたっては安全面を考慮し調査を行った。全体を1/20縮尺で実測し、各遺構のレベルを入れる



11. 暗灰色粘土：1～5cm程の石及び砂を含む。近代磁器及び米片が出土。
12. 淡褐色粘土：やや粘性がある。暗灰色粘土を層中に僅かに含む。上面は直径1～5cmの小石を多く含む硬化している。
13. 淡褐色土：直径2～5cm程の小石を多く含む硬くしめる。
14. 灰色粘土：暗灰色粘土を小ブロック状に多く含む。硬くしめる。上面1～2cm程の小石を僅かに含む。
15. 灰色粘土：硬くしめる。
16. 淡灰色粘土：茶褐色粒状に固形化した金属分を含む。
17. 暗灰色粘土：硬くしめる。
18. 淡褐色粘土：粘性がある。
19. 淡褐色粘土：砂質土を含む。
20. 淡褐色粘土：粘性があり、よくしめる。暗灰色粘土を小ブロック状に僅かに含む。
21. 淡褐色粘土：粘性が高くよくしめる。暗灰色粘土を小ブロック状に僅かに含む。

1. 淡褐色土：硬化している。1～5cm程の小石（川石）を含む。
2. 暗褐色土：扇形の底を多く含む。焦土も多く含む。レンガも含む。
3. 褐色土：上面は1～5cm程の小石（川石）を含む。硬化している。
4. 暗灰色土：1～2cmの小石を僅かに含む。
5. 褐色土：炭粒と焦土を少し含む。上面は直径12cmの小石を僅かに含む。やや硬化している。
6. 暗灰色土：炭粒及び直径1～2cmの小石を少量含む。
7. 暗褐色土：しまりが硬い。
8. 暗褐色土：小枝や木の根等の有機物を多く含む。近現代の遺物が多く出土（陶磁器・瓦・下駄・ガラス製品等）。
9. 褐色土：上面は7～5cm程の小石を含む硬くしめる。
10. 僅かに青味を帯びた暗灰色粘土：上面は1～3cmの小石を含む硬化している。炭粒を僅かに含む。茶褐色粒状に固形化した金属分を含む。

第5図 ニツ川旧河川堤防遺跡1 トレンチ東側壁面土層図 (1/10)

作業、写真撮影を行った。調査が終了したのは令和3年3月31日である。

調査範囲は東西6m、南北8.4m、面積50.4㎡である。検出した遺構は堤防跡である。出土遺物は、近世陶磁器、白磁、染付、須恵器、土師質土器、瓦、木製品、ガラス製品、金属製品、石製品、樹脂製品、プラスチック、貝殻等である。

1. 検出遺構

S-1 (図版3、4)

堤防上部から中部にかけての範囲をS-1として調査を実施した。木片や貝、竹などの有機物を多く含む層であることがこの検出面の特徴である。

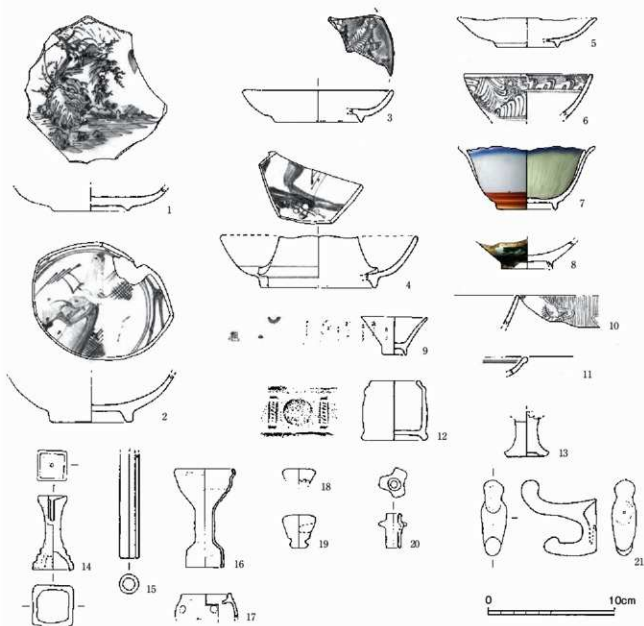
S-1 出土遺物① (第6図、図版6)

1から21は磁器である。1から5は染付の皿である。1は見込みに竹、水、山、家を描く。2は見込みに二条圏線、船、山水文を描く。3は内面に草花文、外面に小さな文様を描き、口縁に口鏝を施す。4は輪花皿で見込みに黒、緑、白、橙で文様を描き、外面に三条圏線、白と橙の点を描く。5は八角形の皿で高台と高台内に一条の圏線、見込みに染付の線と赤の色絵の線が若干残る。

6から8は染付の碗である。6は内面上部に施文が見られ、外面に草文、口縁に口鏝を施す。7は輪花碗で内外面口縁に染付を施し、見込みに花文を彫り、外面下部から高台、高台内に鉄鏝を施す。また、成形は型打ち成形で高台内に九条の同心円跡が残る。8は外面に緑色で松と文様を施した後、透明釉を施軸する。9はほぼ完形の染付小杯で高台内に一条圏線、外面に文様、文字を描く。10は染付の碗で外面に区画を描き、その中に草文、区画間には縦線を描く。11は皿で口縁は玉縁を呈し、内面上部に緑色の二条圏線を描いた後、透明釉を掛ける。12は白磁のクリーム瓶で外面に丸と区画に斜めの線を陽刻する。13は仏飯器で、胴部に一条圏線を施す。14は白磁の仏具で、穿孔部と豊付けから底部内面は露胎。15は碁子である。残存高8.2cm、最大幅は1.5cm。底部と内面のみ施軸し、内面には砂が付着する。16は器種、上下不明の白磁である。外面と内面の一部に透明釉が掛かり、彫った飾り窓のようなものが見られる。17は器種不明の磁器である。直径6mm程の穿孔が三つ残り、口縁内面は釉剥ぎされている。18から20は碁子である。18は破片であり、穿孔の跡が見られる。外面は施軸され、穴の一部にも釉が掛かる。19は完形であり穿孔がある。全体が施軸され穿孔の部分のみ露胎する。20は胴中部に三つの突起が付き、外面下部から底部は露胎する。21は白磁のフックであり、外面接着面及び内面は露胎する。

S-1 出土遺物② (第7図、図版6)

22、23は陶器である。22は碗であり外面に十二条の沈線を実施した後、黄褐色の釉を施す。23は火鉢の口縁部片であり、内外面に鉄釉を施し、外面上部には灰の跡が残る。24は須恵器破片で、内面は平行、外面は格子上のタタキ痕が残る。流れ込みと考えられる。25は陶器の鉢胴部片である。外面に二条の沈線と一条の波状沈線を施し、内外面に鉄釉を施す。26と27はガラス製である。26は白色のガラス製の燭台である。蠟燭立ての針は折れており、針穴跡が残る。27は薄い緑色のガラス製瓶の底部である。底部には「日乾塗聯」の文字が残る。28は土師質の破片で、表面のみ透明釉が施され、貫入が見られる。また、表面には印が押され、その一部が残る。29は不明製品であり、砂地の円柱の中心に円柱状の金属製の細い棒が出ている。工業製品の何かと考えられる。30は不明陶器

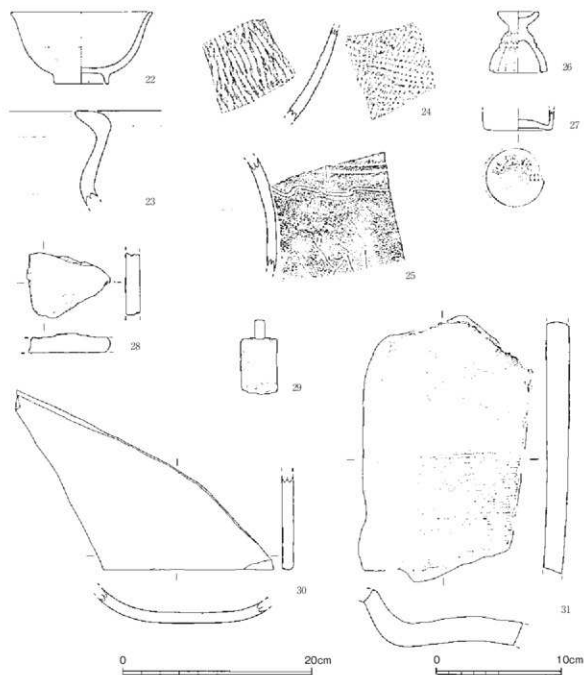


第6図 S-1 出土遺物実測図① (1/3)

の破片である。底部は露胎し、内外面には白色釉が掛かる。31は切り込み椀であり、表面には二十条の沈線が施され、全体はナデ仕上げがされる。

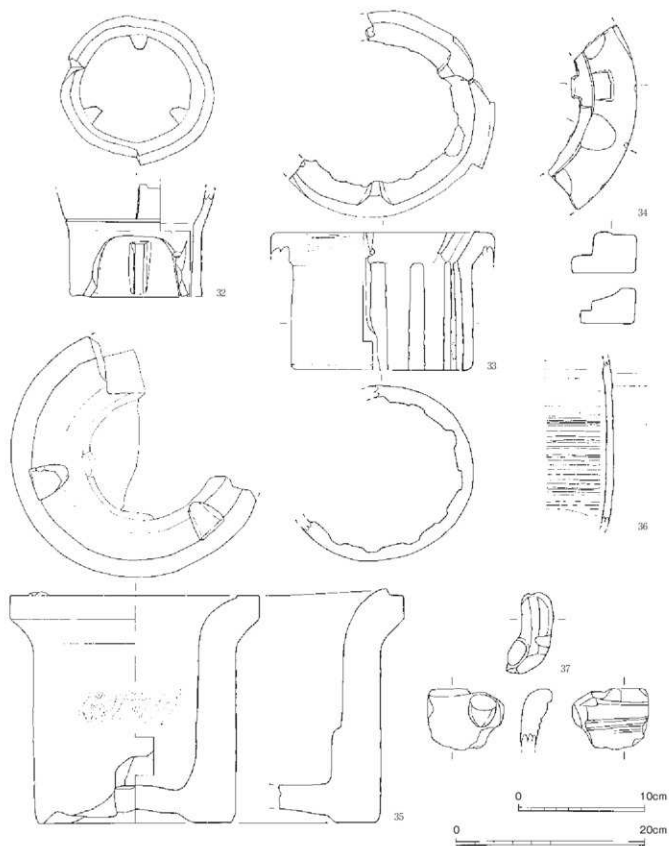
S-1 出土遺物③ (第8図、図版6、7)

32から34は不明土器である。32は窓があり内内面には貼り付けの突起物が3つある。内面は全体ヨコナデ、一部にタテ、ナナメのナデ、ケズリで調整される。上部は暗黒灰色を呈する。内外面胴中部から底部にかけて黒灰色を呈し、燃烧による痕跡と考えられる。外面は底部ナデ調整が残り、窓の上に一条沈線、その上部正面には切り込みのようなものがある。33は内面に凹凸があり、上部

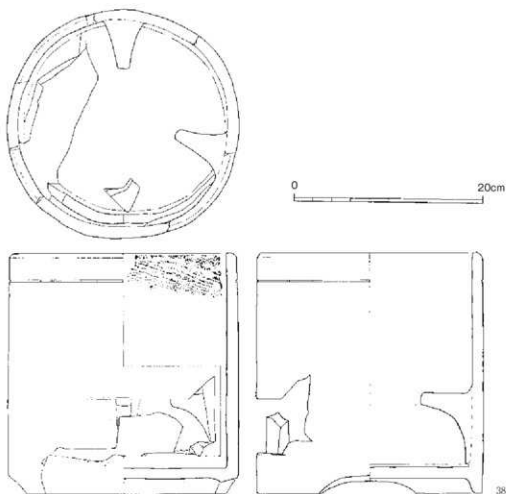


第7図 S-1出土遺物実測図② (30は1/4、他は1/3)

に突起が二つ、穿孔が二つ残存する。突起の下から底部にかけて被熱があり、器種不明であるが火に関連する遺物であると考えられる。また、内面はヨコナデ、下部に薄い指頭圧痕が残る。外面は胴部ナデ、口縁部ミガキが施される。34は復元径22.0cmを呈する。上段には四角の突起と半円径の窪み残り、下段には内側に向かう突起があり、段差が一段つく。内径側は黒色の燃焼痕を確認することができる。35は七輪である。内面口縁部に2つ、胴下部に1つ突起が残存し、胴中部は被熱痕が残る。口縁部には段差がついており、段差下、突起の上部は黒色の燃焼痕が残る。また、窓の



第8図 S-1出土遺物実測図③ (32・33・35は1/4、他は1/3)



第9図 S-1出土遺物実測図④ (1/4)

上には「イソライ」の文字が陰刻されている。36は鉢と考えられる、土器胴部破片である。内面は被熱の影響で黒色になり、煤が付着する。調整は内面ヨコナデ等、外面はヨコナデが一部残り摩滅する。37は軽石を用いた火鉢と考えられる。内面口縁部に楕円形の突起があり、突起下部から下は被熱し、黒灰色を呈する。外面は口縁下に一条、胴上部に三条の沈線が残る。

S-1出土遺物④（第9図、図版7）

38は土器製品であり、二重の窓部を持ち、底部側面はアーチ状を呈す。内面は二つの貼り付け突起が残り、上部は横と斜め方向の櫛掻きがされ、指頭圧痕が残る。突起と壁の接合部のみタテナデ、底部をナデ、それ以外をヨコナデで調整する。外面は上部に一条の沈線が施され、底部のみナデ、その他全体は丁寧なミガキで調整する。

S-2（図版4、5）

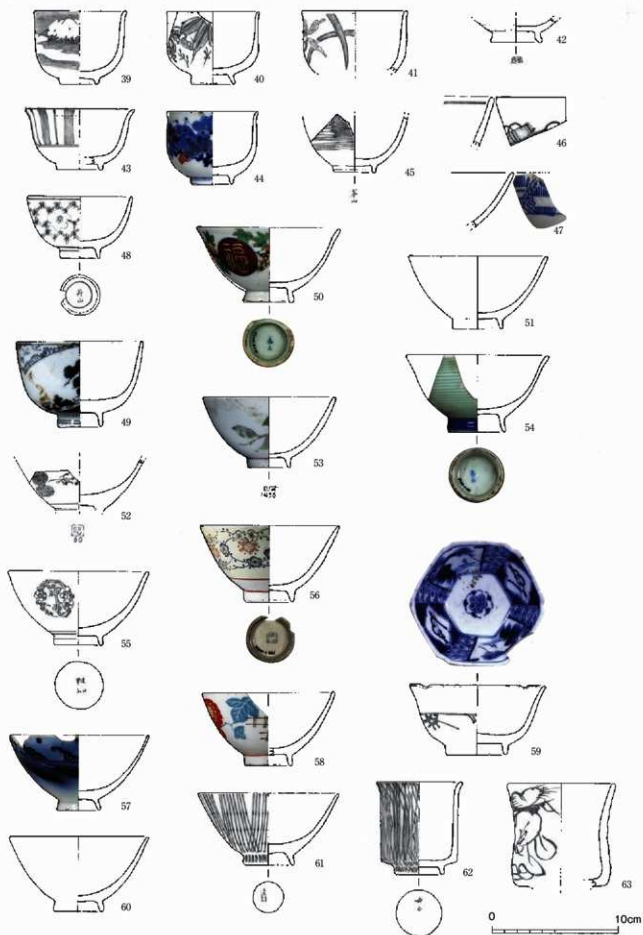
今回の調査では堤防中部から下部にかけての範囲をS-2として調査を実施した。

S-2 出土遺物① (第10図、図版7)

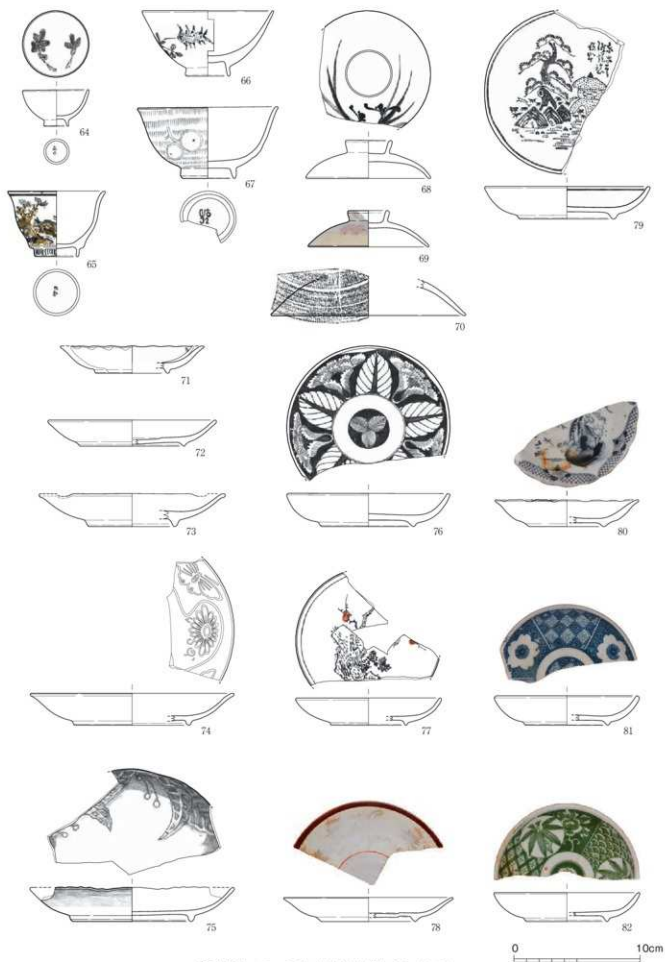
39から63は磁器である。39から41は染付の碗である。39は外面に富士山、雲、水を描く。40は青色の竹と灰オリーブに暗褐色を重ねた竹を描く。41は外面に草花文を描く。42は色絵の碗で外面に薄い黄色の二条圈線、高台内に朱色の裏銘で二重四角形の中に「ヤ」と「陶」の文字を確認できる。43は染付碗で外面胴中部に二条圈線、口縁から圈線の間に青色の太い縦稿と褐色の細い縦稿文様を描く。44は色絵の碗で外面に染付で松と鶴を描き、その上から赤で鶴の頭と草文、金色で松葉文を描く。高台に三条圈線、高台内に「清水」の文字が描かれる。45から49は染付の碗である。45は外面の文様は水文の可能性もある。また、高台内に「峯山」の文字が描かれる。46は口縁部片で、内面に一条圈線、外面に文様が描かれる。47は口縁部片で、外面に型紙刷りの文様を施す。48は外面胴部に亀甲繋ぎと梅花、口縁に一条圈線、高台に二条圈線、高台内に一条圈線と「丹山」の文字を描く。49は外面に松、蓮弁、区画の中に鶴、亀甲、木を描き、高台に二条圈線を描く。50は色絵の碗で外面にプリントによる草花文と「福」の文字を描き、花の中心に黄色の点を乗せ、高台内中央には「春山」の文字を描く。51は碗で外面は全体に緑灰釉、口縁と高台下部に鉄釉を施す。52は統制陶磁器の染付、色絵の碗であり、外面に染付で八手と二条圈線を描き、緑色で茎のようなもの、イッチン技法で赤い実のようなものを描き、透明釉を掛ける。また、高台内に薄緑色で統制番号「肥60」を描く。53は統制陶磁器の碗であり、外面に薄緑色と灰色で折れ枝葉文をプリントし、高台際に朱色の一条圈線を施す。また、高台内に「岐496」とみられる統制番号を陽刻する。54は染付碗で高台を染付し、口縁から高台際までに外面を一周する二十三条の沈線を施した後、透明釉を施釉する。高台内には「春山」の文字が描かれる。55は染付の碗であり、外面に菊花、折枝梅、草、不明文様を描き、胴下部に一条、高台に二条圈線を描く。高台内款に「波〇〇山」の文字を描く。56は統制陶磁器の碗である。外面に黒で梅花と唐草、朱色で六角文と胴下部に一条、高台際に一条の圈線をプリントし、上部の梅の花に白の色絵を施す。口縁から胴下部圈線の間は黄白色、それ以外は灰白色を呈す。また、高台内には統制番号である「岐〇〇5」の文字のスタンプが押される。57は近現代の碗であり、外面に染付とイッチン技法で波濤文を描く。58は色絵、プリントの碗である。外面に水色の葉、朱色の花、茶色の格子をプリントし、花の中心に黄色の点を描く。59は染付の六角輪花小鉢である。内面は区画を四つ描き、それぞれ対称になるように二つの区画の中に松と舟、他の二つの中にさらにひし形の区画を描き、その中に宝文を描く。また、区画間に四方櫛、見込みに花を描く。外面に唐草文を描く。60は染付の碗で文様が残るが欠損のため不明である。61は統制陶磁器の染付の碗で、外面に九条の縦線を下部が交差するように十二個描き、高台内に統制番号「波21」を描く。62は染付の湯呑碗であり、外面に縦状の線を全面に描き、高台内に「〇山」の文字を描く。63は湯呑碗であり、外面に人物とみられるものを濃い赤で描く。

S-2 出土遺物② (第11図、図版7)

64から82は磁器である。64は統制陶磁器の染付小杯であり、見込みに折れ枝松を描き、高台内に統制番号「有6」を描く。65は染付、色絵の碗であり、外面に山、水、木と建物（東屋）を染付し、透明釉を施した後、金彩で染付の一部をなぞるように山、水、木と建物を描く。胴下部に一条圈線、高台に一周する縦線を染付し、高台内には「九谷」を描く。66は染付の碗で外面に草花文を描く。67は統制陶磁器の染付青磁碗である。外面全体に飛鉋風の文様、胴部に果実を陰刻し、青緑色、明青緑色で草文とみられる文様を描く。高台内には統制番号「岐32」が陽刻される。68は染付の蓋で



第10图 S-2 出土遗物实测图① (1/3)



第11図 S-2 出土遺物実測図② (1/3)

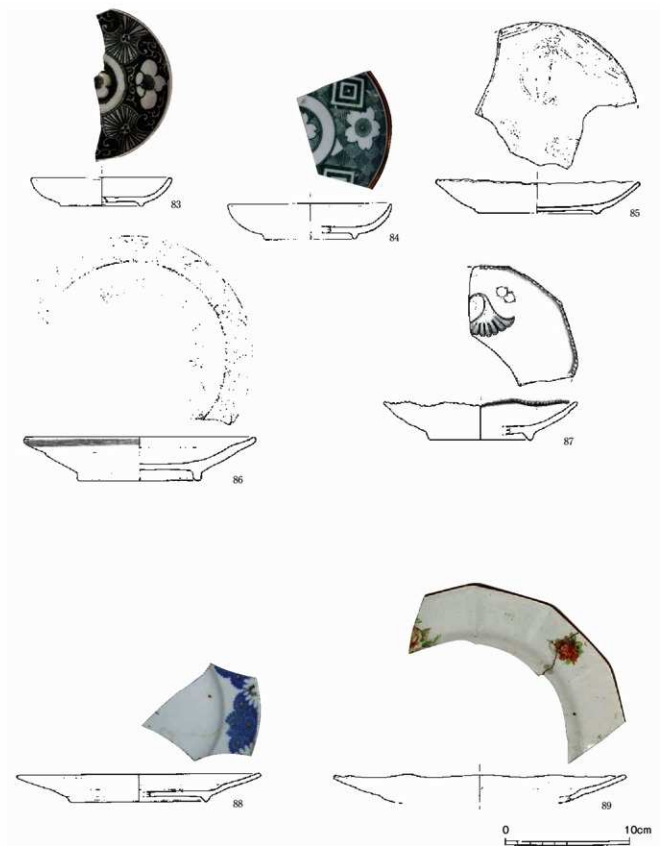
外面に青緑灰色、淡青緑灰色、鉄絵で菖蒲を描く。69は蓋であり、外面に緑色と明赤灰色の松葉、青白色の一条圈線、圈線から裾部にかけて薄い黄色のプリントを施す。70は蓋で外面に飛龍風の文様を施した後、鉄髹を施し、その上から黄釉をまばらに掛ける。内面は透明釉を掛け白色を呈す。71は染付の輪花皿で見込みに黒緑色の文様の一部が残る。72は白磁の皿で見込み中央に窪みがあり、ソーサーと考えられる。73は白磁の輪花皿であり、畳付けに細かい砂が付着する。74は青磁の皿であり、見込みに波状の区画線、蝶、菊を陽刻する。75は型押し成形の染付皿で、口縁内外面は青白色を呈し、見込みに草と実を陽刻と陰刻で表す。76は型紙刷りの染付皿であり、口縁に口錆を施し、内面に牡丹花と葉、二重圈線、中心に丸に三つ葉を描く。77は型紙刷りの染付皿であり、見込みに一条圈線、木、花、木の実輪郭を染付し、薄赤紫で木の実を描き透明釉を掛ける。78はプリント印刷の皿で内面口縁部に褐色の帯線、見込みに花唐草文、朱色の一条圈線を印刷する。見込み中央は窪みがあり、ソーサーであると考えられる。79は砥部焼の染付皿であり、内面口縁部に一条圈線、見込みに松、竹、石塔、文字を描く。80は染付の輪花皿で、区画を描きその中に菊と格子文を描く。見込みは山水文か。81は皿で文様を印刷する。区画を描き、区画の中に桜と青海波、雷と雲を描く。見込み中心には二条圈線を二つ描き、内側の二条圈線の区画の中に雷と雲を描く。また、内外面全体に貫入が見られる。82は銅板刷りの皿である。緑色で内面に丸と扇形の区画を描き、丸の中に草文、扇形の中に四方櫛、花と線、青海波を描く。また、見込み中心には界線を描き、その中に花のような文様を描く。

S-2出土遺物③（第12図、図版7）

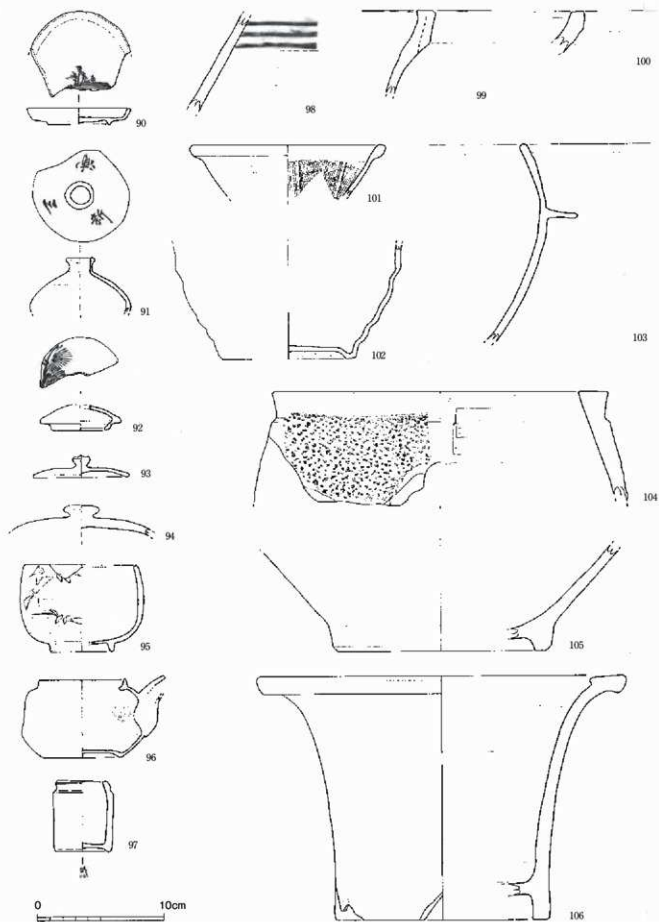
83から89は磁器である。83は銅板刷りの皿であり、内面に区画を描き、区画の中に椿と唐草、区画間に三つの点と放射状の線、見込み中心に界線を描き、その中に椿を描く。84は銅板刷りの皿である。内面に桜と雷文を描き、雷文は太い四角を三重の雷文に様にして表すもの、濃い横線で構成した菱形と薄い縦線で構成した菱形を組み合わせで描くものがある。また、口縁部に口錆を施す。85は型押し成形の輪花皿であり、見込みに草と実を陽刻し、全体に薄瑠璃釉を施す。86は近現代の型押し成形の皿である。内面に草と花のような文様を窪みより上は陽刻、下は陰刻で施し、口縁には藍色の染付を施す。また、高台内には扇形四つで円を構成するような文様が陰刻される。87は染付の十角皿であり、見込みにイチョウを陰刻、丸を陽刻、口縁に刻みを施し、イチョウと刻みには染付を施す。88はプリント、色絵の皿である。内面に菊の花をプリントし、花の中心に黄色の点を描く。また、プリントの端の形で花びらを形作り、その中心に金で放射状の短い線を描く。89はプリントの輪花皿であり、見込みにバラをプリントし、口縁に褐色で色を付ける。また、見込みに薄い窪みが施され、全体に貫入がある。

S-2出土遺物④（第13図、図版8）

90から99、101から106は陶器であり、100は土器である。90は小皿で貫入があり、見込みに鉄絵で松を描く。91は徳利であり、ヨコナデで調整される。内面は施釉され、色調は灰色を呈し、貫入がある。外面は露胎し、「新三浦」の文字が書かれる。92は蓋で外面に鉄絵で松を描く。受け部のみ釉剥ぎされ、全体に貫入が入る。93は常滑焼の急須の蓋である。94は蓋で外面のみ透明釉を施す。95は碗であり、見込みと外面胴中部に白化粧土を施した後、外面にヘラ彫りで竹を描き、透明釉を掛ける。調整は内面回転ヨコナデ、外面と下部にナデ調整を施す。96は急須であり、取手が破損し



第12图 S-2 出土遺物実測図③ (1/3)



第13图 S-2 出土遺物実測図④ (1/3)

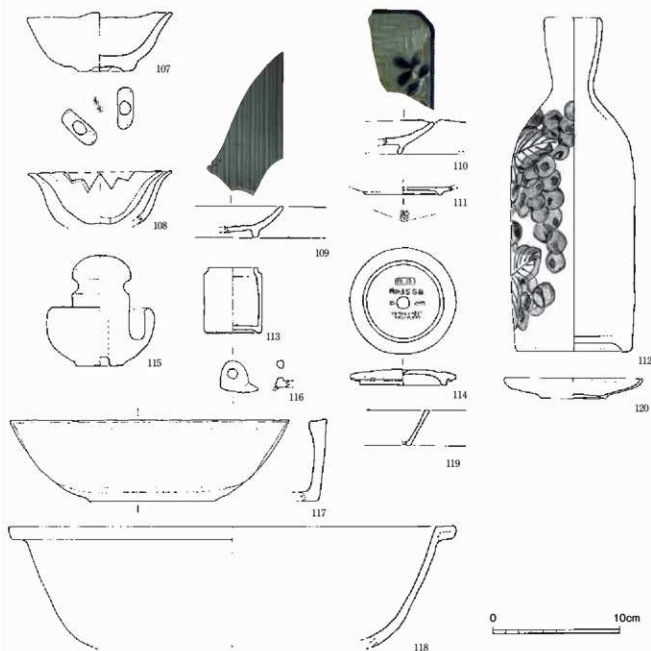
ている。内面口縁上部から外面下部にかけて鉄釉が施され、内面口縁部には五条の細い沈線が施される。97は完形の統制陶器のキャップボトルであり、裏に青色で統制番号「岐1163」のスタンプが押される。また、内外面全体に白色釉が掛かり、貫入がある。98は近世の武雄焼の鉢であり、内面全体に白化粧土、外面に白化粧土の線をそれぞれ施し透明釉を掛ける。99は器種不明の陶器破片であり、外面に無数の規則性のある不明文様が残り、口縁部には煤が付着し、内面はヨコナデで調整される。100は灰器の鉢の破片であり、全体に白化粧土を施す。101は擂鉢であり、内外面に鉄釉を施す。102は鉢であり、型押し成形で形作られ、全面に丸型の凹凸がつけられる。内外面に透明釉を施した後ナマコ釉が掛けられ、色調は内面が黄褐色と一部白青色、外面が白青灰色を呈する。103は釜であり、口縁部を釉剥ぎし、内面と外面上部に透明釉を施す。また、外面下部は黒色になり、煤が付着する。104は火鉢であり、胴上部には穴の一部が残る。内面は横方向のハケナデで調整し、外面型押しで調整する。105は江戸半ばの武雄焼の深鉢である。内面は白化粧土を刷毛掛けした後、透明釉を掛ける。外面は鉄釉と一部に白化粧土を刷毛掛けし、灰釉がまばらに掛かる。また、見込みに環状の砂目跡が残る。106は朝鮮唐津風の植木鉢である。内外面を回転ナデ調整し、内面上部から外面に鉄釉を掛けたのち、外面口縁から胴中部にかけて青黄白色の灰釉を掛ける。また、外面下部には砂が付着し、透かしがある。

S-2出土遺物⑤（第14図、図版8）

107から116は磁器、117は陶器、118は土師質土器、119と120はプラスチック製品である。107は色絵の脚付き輪花碗である。内面に淡黒灰色で笹の葉文が描かれる。脚は二つ残存し、接地面のみ露胎し、底部中心に朱色で「美里」の文字が書かれる。108は八角の輪花碗であり、内面は全体に油性のマーブル模様、口縁に白青色でプリントを施す。109は型押し成形の青磁の角皿であり、見込みに細い線二本と太い線一本が交互になるような文様を陽刻する。110は型押し成形の染付の角皿である。内面に葉と細い四角を交互に組み合わせた連続文様を陽刻し、口縁と葉に染付を施す。111は統制陶磁器の皿であり、高台内に青色で「岐35〇」が書かれる。112は染付の瓶で、外面に葡萄と葉を描き、外面に透明釉、外面上部から内面口縁には鉄釉を施し、内面は釉が掛かる部分以外は露胎する。113は白磁の瓶であり、受け部と底部接地面を釉剥ぎし、底部には砂が付着する。114は完形の統制陶磁器の蓋である。外面のみ施釉し、外面に「防15 特許真空容器 フタヲトルニハ釘デクボミニ穴ヲアケ」の文字と矢印が書かれ、中央には窪みがある。また、外面端には薄い鉄漿の様な釉葉が見られる。115は完形の白磁の罎子であり、底部の穴には鉄分と砂が固められたような物質が詰まる。116は白磁の破片で、ティーポットのつる掛けか。117は鉢の破片であり、角鉢だと考えられ、色調は暗茶褐色を呈する。内外面をヨコナデし、外面はミガキか。118は鍋か。内外面共に摩滅し、口縁、外面下部、内面上部に煤の付着が見られる。119は皿で、色調は黒色である。120は茶托で、色調は極暗赤褐色を呈し、高台内に「万年通宝」、その下に「330」が見られる。

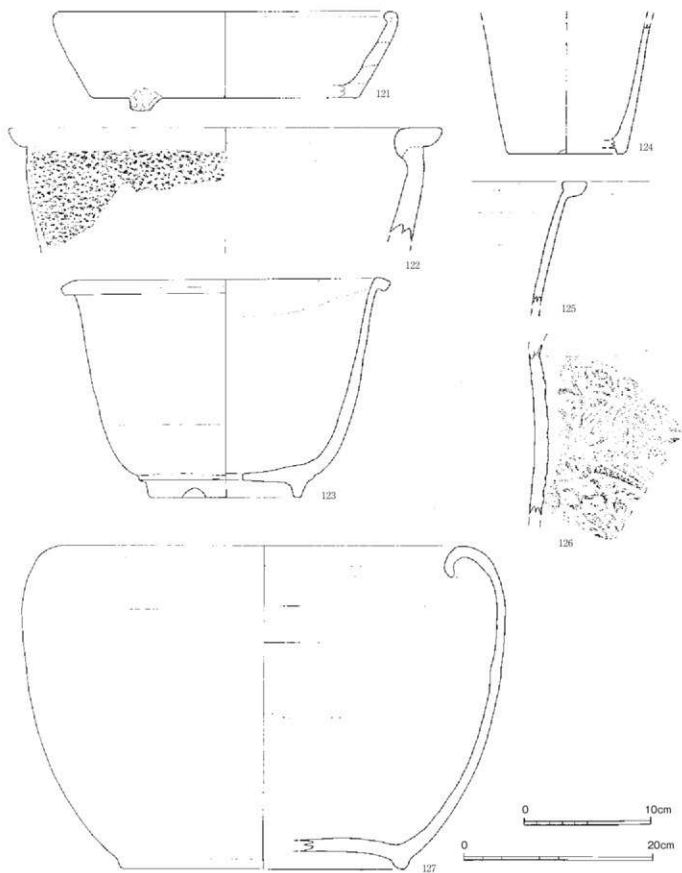
S-2出土遺物⑥（第15図、図版8）

121、122、124は土師質土器、123、125から127は陶器である。121は火鉢で、内面上部から口縁にかけて黒色焼けが見られ、貼り付けの脚が一つ残る。また、内面はヨコナデで調整され、外面は摩滅している。122は火鉢で、口縁から内面にかけて黒色焼けが見られ、口縁下に孔の一部が残る。内面は胴部をヨコハケ、口縁をヨコナデで調整し、外面は細かな凹凸が全面に付き、型押し成形で



第14図 S-2出土遺物実測図⑤ (1/3)

あると考えられる。123はほぼ完形の植木鉢であり、高台に三つの透かしがあり、底部中央には一つ孔がある。内面はヨコナデで調整され、内面口縁から外面高台際まで鉄軸を掛け、その上から灰軸を内面口縁から外面下部にかけて掛ける。また、見込みと高台内に白化粧土を塗布する。124は植木鉢であり、内面をヨコナデ、外面をヨコナデとケズリで調整する。125は鉢である。内面上部から外面まで白化粧土を塗布し、内面は白化粧土の部分を5mmほど残し、その上から透明軸を掛ける。施釉部は全体に貫入があり、内面はヨコナデ調整が見られる。126は火鉢か。色調は外面が暗赤色、黒灰色であり、内面は黒色である。内面はヨコナデで調整され、外面は型押しにより葉、花



第15図 S-2 出土遺物実測図⑥ (127は1/4、他は1/3)

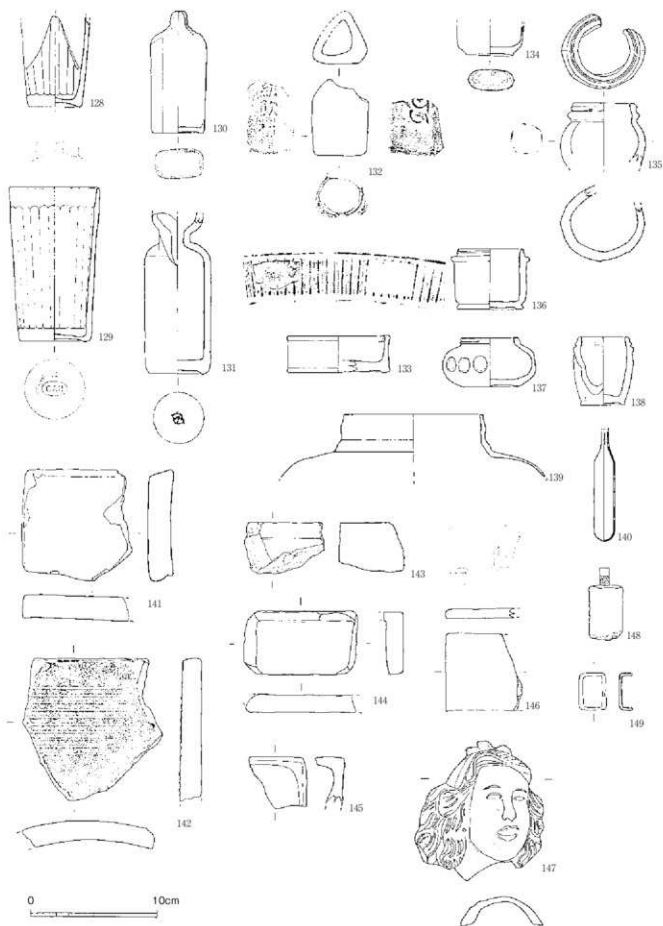
の文様が付けられる。127は鉢である。内面は口縁にヨコナデが見られ、胴中部から底部に鉄奨、胴上部から胴中部に鉄軸が掛けられる。底部にもまばらに軸が掛かり、1.0～4.0mmほどの小石がまゝとまって付着する。外面は、底部のみ鉄奨が掛かり、砂が付着し、全体に黒藍釉が掛かる。

S-2出土遺物⑦（第16図、図版9）

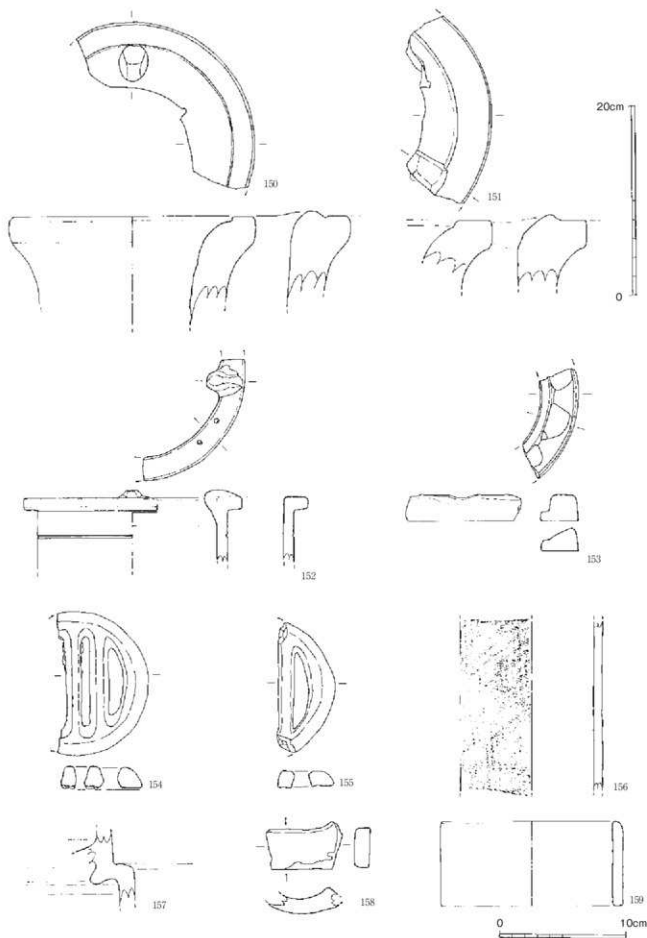
128から140はガラス製品、141、142は瓦、143、144は土師質土器、145、148は不明製品、146、147は陶器、149は樹脂製品である。128は気泡のない明緑色のガラス瓶で、底部に菱形に「SG○」が刻印される。129は気泡のない透明ガラスのコップで、底部中央に楕円に「CAN」、その上に「73」が刻印される。130は青色ガラスの瓶で、気泡をわずかに含む。131は暗オリーブ色のラムネ瓶で、気泡を含み、底部中央に菱形の文様が刻印される。132は青緑ガラスの瓶で、気泡を多く含み、一面に「○級飲料」、もう一面に「9と星」を合わせた模様をそれぞれ刻印する。133は白色ガラスのクリーム瓶か。134は緑ガラスの瓶で、胴部に縦じまがあり、気泡をわずかに含む。135は白色ガラスのクリーム瓶で、角状の陰刻を施す。136は白色ガラスの瓶で、外面に凹凸で窓を付け、縦方向の太い線の間に、細い三本線を全面に施す。137は透明ガラスの小瓶でインク入れか。気泡を含む。138は黒ガラスの小瓶である。139は明緑色ガラスの瓶で、気泡を多く含む。140は透明ガラスの不明製品である。141は平瓦で、側面に斜め方向のナデとケズリが残る。142は平瓦で、ナデ調整を行い、表面に15条の溝が残る。143はレンガの破片か。一面は暗褐色を呈し、その他は赤褐色を呈する。144はタイルか。表面と下側面に釉が残り、貫入がある。145は不明製品の破片で内外面に煤が付着する。146はタイルで、片面と上下側面は施釉し、もう片面は無釉で、中心に菱形の一部と「TRADE」の文字が見られる。147は型押し成形の人の顔である。内面はナデ調整が施され、端は平らになる。148は不明製品であり、工業製品の何かと考えられる。砂地の円柱の中心に円柱状の金属製の細い棒が出ており、棒には全面に縦線と中部から下部にかけて格子が施される。149は蓋か。

S-2出土遺物⑧（第17図、図版9）

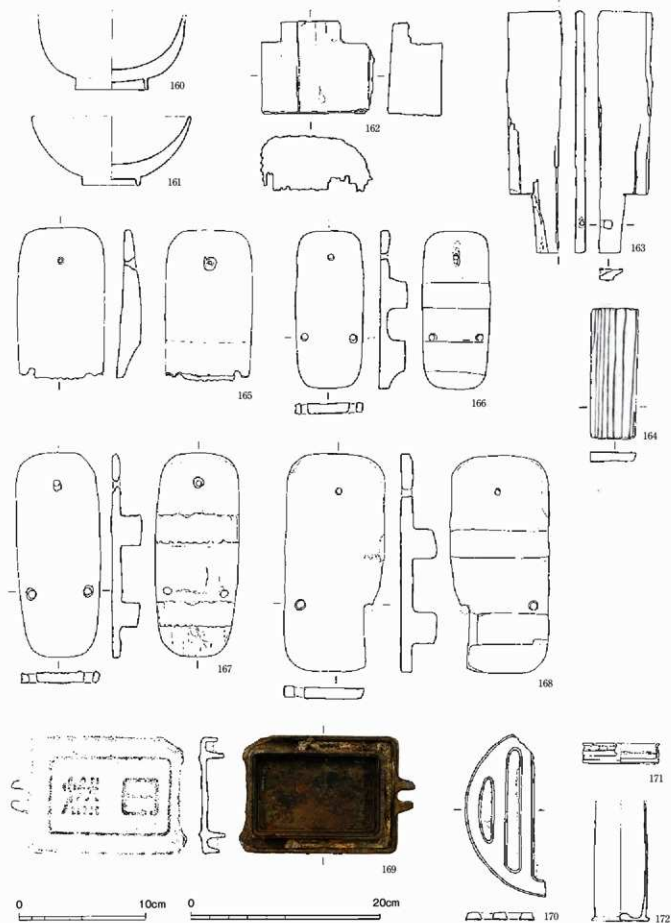
150、151、153は土器、152は陶器、154、155は土製品、157、158は土師質土器、156、159は素材、器種共に不明の製品である。150は七輪であり、口縁に突起物が一つ残り、素材は軟質で珪藻土か。内外面はほぼ摩滅しており、外面にわずかにナデ調整が残る。内面は口縁段差下と突起物の上部が黒色に焼け、煤が付着し、胴部は被熱している。151は七輪であり、角上の突起物が残り、素材は軟質で珪藻土か。内外面はヨコナデで調整され、内面は口縁段差下から突起物の中部までが黒色に焼け、煤が付着し、胴部は被熱している。152は火鉢である。口縁に貼り付けの突起一つと二つの穿孔が残り、穿孔から外側は黒色に焼ける。内面はナデで調整され、胴上部は黄白色、それ以外は橙色から暗赤灰色を呈する。外面は一条沈線が施され、調整は摩滅のため不明である。153は不明土器の製品である。表面内側から上部までは黒色を呈し、使用時のものであると考えられる。154は皿目である。ナデ調整され、裏面には被熱があり、炭が付着する。155は皿目である。表面はナデ、裏面はケズりで調整され、被熱は見られない。156は不明製品であり、外面全面に凹凸が付く。157は不明製品で型押し成形か。内面はナデとハケで調整し、外面は一部ナデが残る。全体は茶褐色、段中部から下は黒色を呈し、燃焼痕の可能性はある。158は不明製品で内外面をナデ調整し、色調は黄白色を呈する。159は不明製品で外面は灰白色を呈し、内面は全面に煤が付着し、火に関連するものであると考えられる。



第16图 S-2出土遗物实测图⑦ (1/3)



第17図 S-2出土遺物実測図⑧ (150～153は1/4、他は1/3)



第18図 S-2出土遺物実測図⑨ (163・165~169は1/4、他は1/3)

S-2 出土遺物⑨（第18図、図版9）

160、161は漆器、162から168は木製品、169、170は鉄製品、171はガラスと金属の複合品、172は金属製品である。160は漆碗で口縁部が欠損する。内外面は明茶色、疊付けのみ黒色を呈する。161は漆碗である。内外面は明茶色、口縁部と高台内、疊付けは黒色を呈する。162は加工されており、凸部がある。建築材の可能性がある。163は加工された不明板で、片面から側面にかけての穿孔が一つ残る。164は不明板である。165は無菌下駄である。166は完形の連菌下駄である。前菌の根元に切れ込みが入る。167は完形の連菌下駄で、前後共にすり減り、後菌のほうがより低くなっている。168は連菌下駄であり、前菌の左側が大きくすり減っている。169は炉の蓋である。全体が被熱し、錆でおおわれている。内側の蓋の接合場所には縄目のロープ状の物が全体の2/3ほど残っており、表には「燃日」の文字がある。170は鉄製の皿である。171は受け皿がガラス、枠の部分が金属類のコースターである。172は不明製品である。見込みの中心に突起物があり、底部に「14」と「1916」の刻印が見られる。

Ⅳ 総 括

本件の二ツ川旧河川堤防遺跡は、一級河川矢部川水系二ツ川左岸の沖積低地（標高3.2m）に位置する旧河川堤防の遺跡である。河川整備計画に伴い令和2（2020）年に実施した試掘調査の結果、現地表面下約40cmで断面が台形を呈する堤状の土木構造物の遺構を検出した。河川に並行し、かつ極めて接近する配置状況から、二ツ川の旧河川堤防の遺構であると判断した。

遺構上端部は暗褐色土が幅約1.4mの硬化した水平面をつくり、河川側にあたる北方向に広がる可能性がある。陸側にあたる南法面は10度から15度の勾配を取る。

所在地付近は、近世柳川城から旧薩摩街道上庄宿に向かう旧瀬高往還が二ツ川河川堤防と重複する区間にあたることから、本遺構上端部の硬化面は、旧瀬高往還に伴う道路敷の遺構である可能性が考えられた。

瀬高往還は柳川藩3代藩主立花鑑虎の隠居後の元禄11（1698）年に、現在のみやま市山川町の野町から清水山山麓の本吉を通して小田村唐尾に至り、矢部川を渡って尾島－羽犬塚－府中宿へと向かう道とは別に、野町から北西へ向かい瀬高下庄・上庄から柳川城下へ入る道として新設された道である。瀬高上庄と瀬高下庄は、瀬高上庄町追分から下妻本郷－尾島－羽犬塚宿に抜ける道が薩摩街道として固定すると、上庄と下庄の両町は宿場町、矢部川の物資集積地となり発展した地域である。

本調査は河川事業において、本遺跡の遺構面に影響を受ける範囲において発掘調査を実施した。そのため、調査区は南北に延びる長方形の調査区となっている。調査区北側は二ツ川に面しており、北側から南側に向かっては10度から15度の勾配を取る。近世における当地は、近世柳川城下町から城外へ出た下百町村に当たる。今回の調査成果としては、二ツ川旧河川堤防に限られた範囲の中で検出出来たことである。

調査では、近世の時代変遷を追うための陶磁器等の出土は少ない結果となった。過去に、本市が近世の発掘調査を実施した遺跡の中でも、調査範囲の違いはあるが近世陶磁器の出土量としては少ない。しかし、近代の陶磁器や工業製品等の出土量は目を引く結果となった。今回の、調査による近世陶磁器の出土数については、調査面積と調査対象が、堤防遺構という構造物であることも遺物量が少ない要因として考えられる。また、当地は昭和12（1937）年に開通した西鉄柳川駅に隣接する場所に当たるため、近代になると農村から様相が変化した地域である。その影響が、近代に入り堤防の南側が埋没した経過に関連するような近代の遺物が多く出土したことは本遺跡の特色の一つである。

今回の調査は、現在も道路として多くが利用されており、発掘調査を実施する機会が稀である、旧瀬高往還の発掘調査を実施したことにより、当地における近世の交通路の変遷を解明する上で貴重な調査となった。

参考文献

- アクロス福岡文化誌編纂委員会 2007 『アクロス福岡文化誌1 街道と宿場町』 海鳥社
- 大橋康二 1994 『古伊万里の文様』 理工学社
- 大橋康二 2004 『シリーズ「遺跡を学ぶ」005 世界をリードした磁器窯・肥前窯』 新泉社
- 江戸遺跡研究会【編】 2001 『図説 江戸考古学研究辞典』 柏書房
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年—九州近世陶磁学会10周年記念—』
- 九州歴史資料館 2018 『上町遺跡2次調査』 福岡県文化財調査報告書 第264集
- 九州歴史資料館 2018 『本町遺跡』 福岡県文化財調査報告書 第265集
- 佐賀県立九州陶磁文化館 2004 『シリーズ「古伊万里の見方」vol. 1』
- 佐賀県立九州陶磁文化館 2005 『「古伊万里の見方」シリーズ2成形』
- 佐賀県立九州陶磁文化館 2006 『「古伊万里の見方」シリーズ3装飾』
- 佐賀県立九州陶磁文化館 2007 『「古伊万里の見方」シリーズ4窯詰め』
- 多田 仁 2017 『愛媛の統制陶器』（紀要愛媛 第13号）
- 福岡県教育委員会 2007 『矢加部町屋敷遺跡Ⅰ』 有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 第3集
- 福岡県教育委員会 2012 『矢加部町屋敷遺跡Ⅳ 蒲船津西ノ内遺跡 蒲船津水町遺跡』 有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 第3集
- 柳川市教育委員会 2008 『本町袋町遺跡・南長柄町遺跡』 柳川市文化財調査報告書 第4集
- 柳川市教育委員会 2008 『細工町遺跡・新町遺跡』 柳川市文化財調査報告書 第5集
- 柳川市教育委員会 2009 『京町遺跡』 柳川市文化財調査報告書 第7集
- 柳川市教育委員会 2016 『上町遺跡Ⅰ』 柳川市文化財調査報告書 第10集
- 柳川市教育委員会 2018 『上町遺跡Ⅱ』 柳川市文化財調査報告書 第14集
- 柳川市教育委員会 2019 『本城町遺跡』 柳川市文化財調査報告書 第15集

表1 出土遺物観察表

ニッ川旧河川堤防道路																
法量 (cm)																
図番号	遺構番号	種類	図形・形状・透視図	胎の特徴・胎の色	口径 (mm)	底径 (mm)	器高	長さ (残存)	幅 (残存)	厚さ	発付・胎着	文様	調整・成形・特徴	数量	年代	残存率
S-1 第6図 1	1	磁器	皿	精良 灰白色		5.9	1.9~				発付 透明釉	見込みに文様。竹・水・山・星	高台中部から発付け輪割ぎ			底部定存
S-1 第6図 2	1	磁器	皿	精良 白色		6.0	3.8~				発付 透明釉	見込みに二条線画と胎。山水文	発付け輪割ぎ			高台部定形
S-1 第6図 3	1	磁器	皿	精良 白色	(12.0)	(6.8)	2.5				発付 透明釉	内面に草花文 外面に不明文様	発付け輪割ぎ 口縁に口譜			口縁部片
S-1 第6図 4	1	磁器	皿	精良 灰白色	(15.4)	(9.0)	4.1				発付 透明釉	外面に三条の縦線 白と黄の点 見込みに不明文様(白、橙、緑、黒)	輪花 発付け輪割ぎ			残0.2
S-1 第6図 5	1	磁器	皿	精良 白色	(11.0)	(4.8)	2.3				発付 透明釉	高台と高台内に一条の縦線 見込みに発付の不明文様 と赤の色絵が若干残る	八角形 発付け輪割ぎ			残0.3
S-1 第6図 6	1、褐色土	磁器	碗	精良 灰白色	(10.4)		3.7~				発付 透明釉	外面は草文	口縁に口譜			口縁部片
S-1 第6図 7	1、青灰色胎土層	磁器	碗	精良 白色	(10.6)	(4.6)	4.9				発付 透明釉	内外面口縁に発付 見込みに花文を彫る	輪花 胴下部から高台、高台内に鉄線を施す 発付けは露胎			残0.3
S-1 第6図 8	1	磁器	碗	精良 灰白色		(4.0)	2.2~				発付 透明釉	外面に胎と不明文様あり				底部破片
S-1 第6図 9	1、青灰色胎土層	磁器	小杯	精良 白色	5.2	1.8	3.0				発付 透明釉	高台内に一条の縦線 外面に月、アツト、文字(前角)文様	発付け輪割ぎ			ほぼ定形
S-1 第6図 10	1、青灰色胎土層、2	磁器	碗	精良 白色	(10.2)		2.4~				発付 透明釉	外面に区画を描き中に草文、区画間には縦線				口縁小片
S-1 第6図 11	1	磁器	皿	精良 白色	(6.8)		1.5~				透明釉	口縁付近に緑色の二条の縦線	玉縁口縁			小片
S-1 第6図 12	1、青灰色胎土層	磁器	タラコ風		3.6	4.8	4.7				白磁 透明釉	矢と区画に斜めの線を隔割	蓋の受け部と発付け輪割ぎ		近現代	定形
S-1 第6図 13	1	磁器	仏像器	精良 灰白色		(3.2)	3.5~				発付 透明釉 鉄髹					残0.5
S-1 第6図 14	1、褐色土	磁器	仏具	精良 白色	上部: 2.3	底部: 3.2	5.9				白磁 透明釉				近現代	定形
S-1 第6図 15	1、褐色土	磁器	砂子	精良 白色			8.2		最大径: 1.5		透明釉		外面: 胴部露胎。底部は施釉 内面: 施釉・透明釉。砂付者 穴径: 9mm		近現代	不明
S-1 第6図 16	1、褐色土	磁器	不明	精良 白色	(4.6)	(3.0)	7.8				白磁 透明釉		上下が不明 割ったかざり窓のようなものがある		近現代	残0.5
S-1 第6図 17	1、胎土層	磁器	不明	精良 白色	(4.0)		1.9~				白磁		直径6mmの穴が3個ある 口縁内面輪割ぎ		近現代	不明
S-1 第6図 18	1、青灰色胎土層	磁器	砂子	精良 白色 白雲母を含む	2.6		1.2~				白磁 透明釉				近現代	残0.5
S-1 第6図 19	1	磁器	砂子	精良 灰白色			2.6		最大径: 2.6 最小径: 1.0		白磁 透明釉				近現代	定形
S-1 第6図 20	1、褐色土	磁器	砂子	精良 白色		1.1	2.7		最大径: 1.9						近現代	定形
S-1 第6図 21	1	磁器	フック	精良 白色			5.8		1.9		白磁				近現代	定形
S-1 第7図 22	1トレンチ	陶器	碗	精良 淡黄白色	(11.2)	(4.2)	5.7				鉄髹		全面に鉄髹を施す			残0.5
S-1 第7図 23	1	陶器	火鉢	1mmの粒を含む 暗茶灰色	(34.0)		7.5~				鉄髹 灰髹					口縁部小片

ニッ川田河川堤防道路

法量 (cm)																
図番号	遺構番号	種類	図説 形状 透視図	胎の特徵 胎の色	口径 (径元)	底径 (径元)	器高	長さ (残存)	幅 (残存)	厚さ	発付・ 備考	文様	調整・成形・特徴	調査 年度	年代	残存率
S-1 第7図 24	1	須恵器	壺か	1mmの石粒 紺灰色				7.3~					内外面にタタキを施す 外面は格子目つき、内面は平行目 つき			小片
S-1 第7図 25	1	陶器	鉢胴部 破片	精良 暗褐色			9.0~			0.6~ 0.9	鉄線	二条の沈線、一条の流状 沈線	ハタケ・ナゲ調整のち施施			胴部破 片
S-1 第7図 26	1	ガラス	燗台		(4.6)	(3.2)	4.8						ホワイトガラス ローソク立ての針が折れて穴跡 だけ残る		近現代	底部完 存
S-1 第7図 27	1	ガラス	瓶底	ガラス 緑青色		(4.6)	1.7						底部に日蓮堂の文字 緑ガラス		近現代	残0.8
S-1 第7図 28	1	土師器	タイル か	に白い瘡 白、黒点母を 多く含む				最大長 (径) : 5.0	最大幅 (幅) : 6.5	最大厚 : 1.5			表面のみ施施 印の一部が見られる		近現代	破片
S-1 第7図 29	1	金属、 砂笥	不明					最大長 : 5.8	最大幅 : 2.9	最大厚 : 2.9			砂地の四柱型の上部に 直径8mmの金属製の四柱の棒		近現代	一部欠 損
S-1 第7図 30	1、2	陶器	破片	精良 黄白色				(14.8)	(18.0)	1.2	白色釉		器種、用途共に不明		近現代	破片
S-1 第7図 31	1	瓦葺	切り込 み瓦葺	1mm~3 mmの白砂粒 含む、白点母 含む 灰黒色				20.0	13.2	2.0			ナゲ仕上げ			不明
S-1 第8図 32	1	土器	不明	小石を含む白 点母 赤褐色		13.6	11.9~						内面：全体ココナデ、一部にタ タキ、ナメのナゲ、ナメ、黄 点母は3つあり、見り付け。 内外面胴中部から底部：黒灰色、 使用による焼けか。 外面：一条沈線、正面に切り込 みのようなものあり、底部ナゲ		近現代	底部完 存
S-1 第8図 33	1、2	土器	不明	1mm~3 mm程の長 石、微細な白 点母、黒点母 を含む 棕褐色	(21.6)	(18.0)	14.6			0.9~ 1.8			内面：胴部下部焼け、ナゲ調 整、微細点母。 口縁：胴上部にかけて突起2 つ、中央2つ残存 外面：ナゲ調整、口縁部ミガキ 模印 器種は不明だが内面の焼けから 次に関連すると思われる。		近現代	不明
S-1 第8図 34	1	土器	不明	3mmの石 灰、5mmの 石粒含む、 1.5mmの金 点母多含む 褐色	直径 : (22.0)			最大幅 : 5.0	最大厚 : 3.2				火に関連する物 褐色~黒色		近現代	残0.3
S-1 第8図 35	1、2	土器	土輪	1mm~3 mm程の小石 を含む 黄白色	(26.2)	(20.2)	24.7					外面に「イソツイ」の文 字彫刻	内面：口縁部に2つ、胴下部に 1つ突起残存。胴中部に火によ る焼け、口縁部下方黒色焼け。 軌面、径面上か		近現代	残0.3
S-1 第8図 36	1	土器	鉢か	1mm程の長 石、白点母を 含む 黄褐色			13.4~		10.4	0.6			内面：ハタケ、ココナデ、焼け で黒色に 外面：ココナデ、磨滅している			胴部破 片
S-1 第8図 37	1	軽石	大鉢				6.2		(8.2)				内面焼け、黒色 外面に4本の沈線、一番下は磨 滅のため途中まで		近現代	破片
S-1 第9図 38	2	土器	不明		(23.2)	24.0	25.5						底部が2重になっている。 外面：全体にミガキがかかるが ミガキ痕は見えない。上部に一 条沈線、底部のみナゲ。 内面：見り付けの突起が2つ残 存、上部は磨滅、微細点母あり。 突起物の接合部のみタタキ。 底部ナゲ、その他はココナデ。		近現代	残0.7
S-2 第10図 39	2	磁器	蓋付碗	精良 白色	7.4	2.8	5.8				金付 透明釉	外面に富士山・雲・水	蓋付縁割ぎ			定形
S-2 第10図 40	2	磁器	碗	精良 白色	(7.2)	3.3	5.8				金付 透明釉	外面に2色(青色と灰サ ーベに暗褐色)の竹(笹) の煎文				残0.3
S-2 第10図 41	2	磁器	碗	精良 灰白色	(8.4)		4.9~				金付 透明釉	外面に草花文				口縁部 残0.2

ニッ川旧河川堤防道路																
法量 (cm)																
図番号	遺構番号	種類	図形・透視図	胎の特徵 胎の色	口徑 (mm)	底径 (mm)	器高	長さ (残存)	幅 (残存)	厚さ	発付・ 埋蔵	文様	調整・成形・特徴	調査	年代	残存率
S-2 第10図 42	2	磁器	陶	黒い粘土含む 白色		(4.0)	2.0~				色絵 透明釉	外面に黄白色の二条線 高台内に「雲」の文字が 残る	発付・埋蔵			底面残 0.5
S-2 第10図 43	2	磁器	陶	黒い粘土含む 白色	(8.6)	(3.4)	4.8				透明釉	外面胴中部に青で二条線 線、口縁から腹縁の間に 青の太い「雲」の文字が 残る	発付・埋蔵			口縁残 0.3
S-2 第10図 44	2	磁器	陶	精良 白色	7.2	3.4	5.8				発付・ 色絵 透明釉	外面に松と鶴 発付の上から赤と藍色で 文様を描く 高台に三条線 高台内に「文」の文字	発付・埋蔵			残0.8
S-2 第10図 45	2	磁器	陶	精良 灰白色		(3.2)	4.5~				発付 透明釉	外面に文様があり水か 高台内に「雲」の文字				残0.3
S-2 第10図 46	2	磁器	陶	精良 灰白色	11.0		4.0~				発付 透明釉	内面に一条線 外面に不明な文様あり				口縁部 片
S-2 第10図 47	2	磁器	陶	精良 灰白色			4.3~				発付 透明釉	文様は残りが悪く不明	外面は型紙張りコバルト色		近現代	口縁部 片
S-2 第10図 48	2	磁器	陶	精良 白色	8.2	3.05	4.9				発付 透明釉	口縁外部一条線 胴面全面に亀甲文 高台に二条線 高台内に「雲」の文字	発付・埋蔵			ほぼ定 形
S-2 第10図 49	2	磁器	陶	精良 白色	10.0	(3.6)	6.8				発付 透明釉	外面に松、鶴、蓮下 高台に二条の線	発付・埋蔵			残0.5
S-2 第10図 50	2	磁器	陶	精良 白色	11.2	3.8	5.9				プリント 色絵 透明釉	胴面：草花文と「雲」の 文字 高台内に「雲」の文字	プリント・色絵 発付・埋蔵			ほぼ定 形
S-2 第10図 51	2	磁器	陶	精良 白色	11.1	3.8	5.8				透明釉 緑灰釉		高台及び口縁の外側に鉄線、外 面全体に鉄線を描く			残0.8
S-2 第10図 52	2	磁器	陶	精良 白色			4.1~				発付 透明釉	外面：八手の文様	鉄線陶器 高台内に「雲」の文字	1911~		残0.3
S-2 第10図 53	2	磁器	陶	精良 白色	(10.6)	(3.4)	5.6				色絵 透明釉	外面に枝折れ文 高台内に一条の線 高台内に「雲」の文字	鉄線陶器 高台内に「雲」の文字 発付・埋蔵	1911~		残0.5
S-2 第10図 54	2	磁器	陶	精良 白色	(11.2)	4.3	6.1				発付 透明釉	高台内に「雲」の文字 外面に二条の線 高台内に「雲」の文字	発付・埋蔵			残0.3
S-2 第10図 55	2	磁器	陶	黒い粘土含む 灰白色	10.8	3.6	5.8				発付 透明釉	外面下部に一条と高台 外面に二条の線 高台内に「雲」の文字 外面に「雲」の文字 草文、不明な文様	発付・埋蔵			残0.5
S-2 第10図 56	2	磁器	陶	精良 黄白色	(11.0)	(3.6)	6.1				色絵 透明釉	外面に梅花と草 高台で六角文 高台内スタンプ印の「雲」	発付・埋蔵			残0.3
S-2 第10図 57	2	磁器	陶	精良 白色	(11.0)	(3.3)	6.0				発付 透明釉	外面に波文	イッチン技法		近現代	残0.6
S-2 第10図 58	2	磁器	陶	精良 白色	(10.6)	(3.6)	5.8				プリント 色絵 透明釉	高台内に一条の線 外面に花、雲、格子文	発付・埋蔵		近現代	残0.5
S-2 第10図 59	2	磁器	小鉢	精良 白色	10.8	4.6	5.5				発付 透明釉	内面に四つの区画、二つ の区画に松と鶴、他の二 つにひし形の区画と文 区画間に四方文、足 区画に花 外面に雲文	六角形 輪花 発付・埋蔵			ほぼ定 形
S-2 第10図 60	2	磁器	陶	精良 白色	(11.0)	3.8	5.9				発付 透明釉	外面に文様がみられるが 残りが少ない 発付・埋蔵				残0.3
S-2 第10図 61	2	磁器	陶	精良 灰白色	11.2	4.2	5.7				発付 透明釉	外面に三条の線 高台内に「雲」の文字 高台内に「雲」の文字	鉄線陶器 発付・埋蔵	1911~		定形
S-2 第10図 62	2トレン チ	磁器	陶	精良 灰白色	(6.8)	(3.8)	7.3				発付 透明釉	外面に縦文の文様 高台内に「雲」の文字				残0.6

ニッ川田河川幾時遊路																
法量 (cm)																
図番号	遊歩番号	種類	図形・透視名	胎の特徴 胎の色	口徑 (径元)	底径 (径元)	器高	長さ (残存)	幅 (残存)	厚さ	染付・ 施釉	文様	調整・成形・特徴	産地	年代	残存率
S-2 第10図 63	2	磁器	圓	黒い松子含む 白色	(8.3)		8.2~				半磁 透明釉	外面に半結で入小				残0.3
S-2 第11図 64	2	磁器	小杯	精良 白色	5.3	1.9	2.9				染付 透明釉	見込みに竹枝松文 高台内に「有6」	模刻陶磁器 染付け輪割ぎ		1901~	口縁一部欠損
S-2 第11図 65	2	磁器	圓	精良 灰白色	(7.8)	(3.4)	5.2				染付 金彩 透明釉	外面に山水風景と建物 (東屋) 高台内に九谷の文様	染付け輪割ぎ			残0.5
S-2 第11図 66	2	磁器	圓	精良 白色	10.4	3.4	5.2				染付 透明釉	外面に草花文	染付け輪割ぎ			ほぼ定形
S-2 第11図 67	2	磁器	圓	精良 灰白色	11.0	4.1	5.7				染付・ 青磁 透明釉	外面全体に幾何風の文様、中央を模刻 草文か、不明の文様 高台内に模刻番号「焼 32」の印	模刻陶磁器 染付け輪割ぎ		1901~	残0.6
S-2 第11図 68	2	磁器	蓋	精良 灰白色	つまみ 径3.6	縦径: 9.8	3.0				染付 透明釉	外面に莨蓀	つまみ部上端輪割ぎ			残0.5 以上
S-2 第11図 69	2	磁器	蓋	精良 白色	つまみ 径: (3.0)	縦径: (9.5)	2.9				プリント 透明釉	外面に緑色と明茶灰色の 松葉と青白色の一条縋 線、縋線から裾部に薄い 黄色のプリント	つまみ部上端輪割ぎ			残0.5
S-2 第11図 70	2	磁器	蓋	黒い松子含む 白色		縦径: (15.4)	2.8~				青磁 透明釉	外面は幾何風	青磁、鉄質			口縁部 0.2
S-2 第11図 71	2	磁器	皿	精良 白色	(11.2)	(5.8)	2.15				染付 透明釉	見込みに文様の一部が残 る	輪花 染付け輪割ぎ			残0.2
S-2 第11図 72	2	磁器	皿	精良 白色	13.4	8.4	2.1				白磁 透明釉		ソーサーか 染付け輪割ぎ			残0.8
S-2 第11図 73	2	磁器	皿	精良 白灰色	(14.8)	(6.8)	2.6				白磁 透明釉		輪花 染付けは輪割ぎ、砂付き			残0.2
S-2 第11図 74	2	磁器	皿	精良 白色	(16.2)	(9.1)	2.5				青磁 緑釉	内面にキョウ、菊花文	染付け輪割ぎ			口縁部 残0.2
S-2 第11図 75	2	磁器	皿	精良 白色	(16.6)	(9.5)	2.7				染付 透明釉	見込みに草と実	輪花 型押し成形 染付け輪割ぎ			残0.3
S-2 第11図 76	2	磁器	皿	精良 白色	13.0	7.3	2.6				染付 透明釉	内面に牡丹花、重 二重の縋線の中矢に 丸に三葉の文様	型紙張り 口縁に口蓋 染付け輪割ぎ			残0.6
S-2 第11図 77	2	磁器	皿	精良 白色	(11.4)	5.9	2.15				染付 透明釉	見込みに一条縋線と木、 花、薄い赤茶の本の葉	型紙張り 染付け輪割ぎ			残0.5
S-2 第11図 78	2	磁器	皿	精良 白色	(13.4)	(7.4)	1.9				透明釉	文様は花菱草文 プリント印刷か 文様は剥落している	見込みに凹状になっている 染付け輪割ぎ		現代	残0.3
S-2 第11図 79	2	磁器	皿	精良 白色	(13.2)	7.6	2.6				染付 透明釉	見込みに松・竹・石等、 文字	風部能 染付け輪割ぎ			残0.6
S-2 第11図 80	2	磁器	皿	精良 灰白色	(11.4)	(6.0)	2.1				染付 透明釉	見込みに山水文か 内面に区画に菊文と松子文	輪花 染付け輪割ぎ			残0.5
S-2 第11図 81	2トレン チ	磁器	皿	精良 灰白色	(11.0)	(6.5)	2.8				プリント 透明釉	内面に区画、松、波、雲、 雷文を印刷	印刷 貫入あり			残0.5
S-2 第11図 82	2	磁器	皿	精良 白色	(11.6)	(6.6)	2.3				染付 透明釉	丸の区画に草文 扇形の区画に四方蓮、花 と縋、青縋 界線内に花の文様か	銅版張り 染付け輪割ぎ			残0.5
S-2 第12図 83	2	磁器	皿	精良 白色	(11.2)	(6.5)	2.2				染付 透明釉	内面に区画の中に梅花と管 草、区画間に三つの点と 放射状の縋、界線に縋	銅版張り 染付け輪割ぎ			残0.5
S-2 第12図 84	2	磁器	皿	精良 灰白色	(13.0)	(7.2)	2.8				染付 透明釉	内面に松、雷文 界線内に松	銅版張り 口縁に口蓋 染付け輪割ぎ			残0.2
S-2 第12図 85	2	磁器	皿	精良 白色	(16.0)	(9.5)	2.55				青磁 透明釉	見込みに草と実を模刻	輪花 型押し成形 染付け輪割ぎ			残0.6

三井田河川堤防道路															
法量 (cm)															
図番号	遺構番号	種類	形状・ 名称	胎の特性 胎の色	口径 (mm)	底径 (mm)	器高	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ	染付・ 施装	文様	調査・成形・特徴	調査 年度	残存率
S-2 第12図 86	2	磁器	皿	精良 白黄色	18.1	9.4	3.4				透明釉	唐草と花のような文様を 陶器、彫刻	型押し成形 口縁のフチには藍色の染付 染付け輪郭線	近現代	残0.5
S-2 第12図 87	2	磁器	皿	精良 灰白色	(15.4)	(8.0)	3.0				染付 透明釉	見込みにイチョウを陶 刻、丸を陶器 口縁に施す	イチョウと梨山に染付 染付け輪郭線		残0.2
S-2 第12図 88	2	磁器	皿	精良 白色	(19.4)	(10.6)	2.2				プリント 色絵 透明釉	内面に菊花文をプリント 花の中心に黄色の点と金 の放射状の線	染付け輪郭線	近現代	口縁残 0.1
S-2 第12図 89	2	磁器	皿	精良 白色	(22.8)		2.2				透明釉	見込みにハタ	プリント 輪花 全体に貫入 薄いくぼみ(見込み)	近現代	口縁破 片
S-2 第13図 90	2	陶器	小皿	精良 淡白黄色	(8.0)	4.9	1.3				鉄絵 透明釉	見込みに松	貫入あり 染付け輪郭線		口縁残 0.5弱
S-2 第13図 91	2	陶器	磁器	陶器な砂粒 淡白黄色	2.0		4.3				灰釉		内面に灰色の染付を施し、 外面は無地で「新・三・通」の 文字	上半分	
S-2 第13図 92	2	陶器	蓋	精良 白黄色		縦径: (4.6)	2.0				鉄絵 透明釉	外面に松	全体に貫入 染付け輪郭線		残0.5
S-2 第13図 93	2	陶器	急須蓋	精良 赤褐色		縦径: (7.4)	1.7						雲雀焼		残0.5
S-2 第13図 94	2	陶器	蓋	陶器な白砂粒 含む 淡黄褐色			2.5		(11.0)		透明釉				残0.5
S-2 第13図 95	2	陶器	碗	1mmの砂粒 含む 淡黄褐色	9.0	5.0	6.9				透明釉	外面に竹をへう彫り	見込みに外面側中部に 白化粧土を施す 染付け輪郭線 貫入あり		残0.8
S-2 第13図 96	2	陶器	急須	精良 白黄色	6.7	5.8	6.2				鉄釉		内面に緑色の染付を施し、口縁内側 に朱色の細い花文 外面に鉄釉を施し、底部露胎 取手欠損	ほぼ完 形	
S-2 第13図 97	2	陶器	キャッ プボトル	不明	4.0	4.2	5.7				白色釉	表面に「1863」とい うスタンプあり	口縁や胴部に白色釉がのぼる 貫入あり	1941	完形
S-2 第13図 98	2	陶器	鉢	3mmの石莖 含む 暗褐色			7.7				透明釉		外面に白化粧土の線	武蔵 時代	破片
S-2 第13図 99	2	陶器	不明	1mmの金雲 母含む 黒褐色	(22.0)		6.6					外面に不明文様			破片
S-2 第13図 100	2	土器	鉢	1mmの鉄含 む 赤白黄色			3.3						灰器、表面に白化粧土		口縁部 小片
S-2 第13図 101	2	陶器	磁器	陶器な砂粒含 む 赤褐色	(15.0)		4.1				鉄釉				口縁部 残0.2
S-2 第13図 102	2	陶器	鉢	精良 淡黄褐色		10.6	9.0				ナマコ 釉		型押し成形 内面に白黄の染付がみられる 染付け輪郭線	近現代	残0.4
S-2 第13図 103	2	陶器	蓋	1.5mmの鉄 含 黄褐色	(20.0)		15.5				透明釉		外面下部に鉄付を 内面に鉄絵を施す 外面口縁部付近は透明釉 口縁輪郭線		口縁部 残0.1
S-2 第13図 104	2	陶器	大鉢	1mmの金雲 母含む 赤褐色	(26.6)		8.8						口縁より5cm下に円形の朱気 孔の一部がみられる		口縁部 残0.3
S-2 第13図 105	2	陶器	深鉢	0.5mm～2 mmの白砂粒 含む 赤褐色	(16.4)		8.4				透明釉 鉄釉		内面に白化粧土ハタ掛けし、透 明釉をかける 外面は鉄絵ハタ掛け 見込みに墨状の砂付線	武蔵 時代	底部片
S-2 第13図 106	2	陶器	横鉢	1mmの鉄含 む 黄褐色	(29.0)	(16.8)	19.2				鉄釉 鉄釉		内外黄褐色の染付を施した後、 外面側上部から内面に白化粧土 をのぼす 裏面に透かし 網目唐津風 貫入あり		口縁部 残0.8
S-2 第14図 107	2トレン チ	磁器	碗	精良 灰白色	(11.4)		4.6				明緑白 釉	底部に「天里」の文字 内面に墨の重文	輪花 足部: 残存2つあり	近現代	残0.3

ニッ川田河川堤防道路																
法量 (cm)																
図番号	遺構番号	種類	図形・形状・透視図	胎の特徴・胎の色	口径 (mm)	底径 (mm)	器高	長さ (残存)	幅 (残存)	厚さ	発付・備考	文様	調整・成形・特徴	調査	年代	残存率
S-2 第14項 108	2	磁器	皿	精良 白色	(11.0)		4.2~				発付 透明釉		口縁輪花。胴部は八角形か？ 口縁上部のみ白青色をプリント 内面：流性のマーブル模様		近現代	残0.2
S-2 第14項 109	2	磁器	皿	精良 白色			2.5				青磁		角皿 器付け輪割ぎ			残0.2
S-2 第14項 110	2	磁器	皿	精良 白色			2.7~				発付 透明釉	内面に草文を陰刻	器付け輪割ぎ			口縁部 片
S-2 第14項 111	2	磁器	皿	精良 灰白色		(6.0)	0.7				白磁 透明釉	高台内に「証 35 ○」	模刻陶磁器 器付け輪割ぎ		1941~	底部残 0.3
S-2 第14項 112	2トレン チ	磁器	瓶	精良 白色	4.2	9.2	26.4				発付 透明釉	外面にブドウの葉、葉	器付け輪割ぎ			定形
S-2 第14項 113	2	磁器	小瓶	精良 灰白色	3.8	4.2	5.2				白磁 透明釉		受け部と底部接地面を輪割ぎし、跡が付着			定形
S-2 第14項 114	2	磁器	蓋	精良 淡黄白色	最大幅 : 8.4	縦径 : 6.8	1.2				透明釉	外面に「助、15 時許空 容器フタサトルニハ前デ クボミニ穴サマテ」を書く	模刻陶磁器		1941~	定形
S-2 第14項 115	2	磁器	砂子	精良 白色				最大長 : 8.7	最大幅 : 8.5		白磁 透明釉		底部輪割ぎ		近現代	定形
S-2 第14項 116	2	磁器	つる懸 け磁片	精良 白色				2.35	2.1	0.5	白磁 透明釉		孔径 : 0.8cm		近現代	破片
S-2 第14項 117	2	陶器	角鉢	1mm 程度の小 石を含む 暗茶褐色			6.4		(22.1)	0.7~ 1.3			内外面：ヨコナデ。外面ミガキ			破片
S-2 第14項 118	2	土師質 土器	皿？	2mm の金器 屑 含む 淡褐色	(35.6)		9.5						全面的に腐付着			口縁残 0.3
S-2 第14項 119	2	ガラス チャック	皿		(14.2)	(11.6)	2.8						色調は黒		近現代	小片
S-2 第14項 120	2	ガラス チャック	茶托		10.8	5.0	1.6					高台内に「万年通宝」 [330]	色調は暗赤褐色		近現代	残0.8
S-2 第15項 121	2、2ト レンチ	土師質 土器	大鉢	4mm の石質 を含む 褐色	(27.4)	(21.8)	7.8						内面土部から口縁にかけて腐付 着 新貼り付けし、1つ残存			口縁部 残0.5
S-2 第15項 122	2	土師質 土器	大鉢	1mm の金器 屑を含む 淡褐色	(34.4)		9.0~						口縁部より 3cm 程下に円形の 穴あり 一部がみられる			口縁残 0.3
S-2 第15項 123	2トレン チ	陶器	様本鉢	精良 暗茶褐色	23.6	12.0	17.2				鉄焼 灰釉		高台に3つの通かし 底部中央に未出孔 見込みと高台内に白化部土			ほぼ定 形
S-2 第15項 124	2	土師質 土器	鉢	1mm の粒含 む 淡褐色		(9.0)	10.4~						底部に通かしの一部残存			底部残 0.3
S-2 第15項 125	2	陶器	鉢	1mm 程度の小 石を含む 黄灰色	(35.0)		9.8~				透明釉		外面から内面上部まで白化部土 を散布し施釉。施釉下部には塗 布した白化部土を5mm ほど残す ヨコナデ。貫入あり			口縁部 片
S-2 第15項 126	2	陶器	大鉢か	2.5mm 程度 の石粒を含む 淡褐色			13.6						外面に花、葉を型押し 透・焼成の黒色塗料の散布		近現代	小片
S-2 第15項 127	2トレン チ	陶器	鉢	精良 黄白色	(42.6)	(29.6)	34.3				鉄焼 黒灰釉		外面：底部に鉄焼 内面：口縁部ササ。胴上部~中 部に鉄焼 胴中部~底部に鉄焼 底部はまばらに鉄焼が少かる 1~4mm ほどの小石がま まて付着			残0.2
S-2 第16項 128	2	ガラス	瓶				4.0	7.1~					上げ底で中央に「SGO」の 刻印がある 気泡なし 緑ガラス		近現代	残0.3
S-2 第16項 129	2	ガラス	コップ		7.2	5.6	12.2						気泡なし 上げ底で中央に「CAN」の刻印 透明ガラス		近現代	定形

ニッ川旧河川堤防道路															
法量 (cm)															
図番号	遺構番号	種類	図形・ 名称	胎の特殊 胎の色	口徑 (mm)	底径 (mm)	器高	長さ (残存)	幅 (残存)	厚さ	形状・ 特徴	文様	調整・成形・特徴	調査 年度	残存率
S-2 第16頁 130	2	ガラス	瓶		7.0	長軸: 4.0 短軸: 2.5	9.5						青ガラス 気泡わずかに含む	近現代	定形
S-2 第16頁 131	2	ガラス	ラムネ 瓶			4.0	12.7~						暗オリーブガラス 気泡あり、上げ底	近現代	底面残
S-2 第16頁 132	2	ガラス	瓶				6.0		最大 幅:4.5				1面に「○織物科」、もう1面 に「9と金」を合わせたような 模様 底面は三角形に正円、気泡を含む 緑ガラス	近現代	残0.3
S-2 第16頁 133	2	ガラス	タリ ム瓶か		(8.0)	(8.0)	2.85						白ガラス	近現代	残0.3
S-2 第16頁 134	2	ガラス	瓶			長軸: 3.7 短軸: 1.7	2.4~						緑ガラス	近現代	底面残 形
S-2 第16頁 135	2	ガラス	タリ ム瓶		4.8		5.0~						底面に凹みあり 白ガラス	近現代	残0.6
S-2 第16頁 136	2	ガラス	小瓶		5.0	5.2	4.8						外面はラベルを貼る意が対面に ある 回転キャップ 白ガラス	近現代	定形
S-2 第16頁 137	2	ガラス	イン タ人 れか		4.6	4.0	3.9						上げ底、回転キャップ 気泡あり 透明ガラス	近現代	定形
S-2 第16頁 138	2	ガラス	瓶		3.8	3.4	5.4						黒ガラス	近現代	底面残 0.5
S-2 第16頁 139	2	ガラス	瓶		(11.0)		5.0~						四角形 大きな気泡あり 緑ガラス	近現代	口縁部 片
S-2 第16頁 140	2	ガラス	瓶		上部口 径:0.5		8.7~		最大 幅:1.1				透明ガラス	近現代	一部欠 損
S-2 第16頁 141	2	瓦質	平瓦	精良 灰白色				(8.25)	(8.4)	1.8			上腹面に斜め方向のナデ、ケス リ跡あり		不明
S-2 第16頁 142	2	瓦質	平瓦	精良 灰白色				(11.25)	(10.4)	1.6			裏面にハケ目		不明
S-2 第16頁 143	2	土師質	レンガ 破片か	1mm程度の 砂粒を含む 褐色				縦:4.0	横:5.0	5.0			一面が焼けて暗褐色		小片
S-2 第16頁 144	2	土師質	タイル か	白磁母を含む にふい黄色				5.0	8.8	1.35			表面、下腹面に輪 貫入あり		不明
S-2 第16頁 145	2	不明	不明	不明			2.3	長軸: 4.6 短軸: 4.0					内外面に縦付者	近現代	破片
S-2 第16頁 146	2	陶器	タイル	精良 灰白色				5.6~	6.1	7.5				近現代	不明
S-2 第16頁 147	2	陶器	人形、 器	精良 灰白色				最大長: 10.5	最大 幅:9.8	0.4			型押し成型 内側はナデにより調整されている	近現代	定形
S-2 第16頁 148	2	金属、 砂質	不明					最大長: 5.7	最大幅: 2.7	最大厚: 2.7			覆い布を覆った円柱状の上部に 金属製の棒が差し込まれている 円柱の表面に上部部、下部格子 状に割がある 工業製品か	近現代	一部欠 損
S-2 第16頁 149	2	樹脂	蓋か				1.0	長軸: 2.9	短軸: 2.15				赤褐色	近現代	定形
S-2 第17頁 150	2	土器	七輪	良 質白色	(25.2)		11.5~						内外面:摩滅しているが外面に 一部ナデが残る 内面:口縁部直下から突起物上 部まで黒色焼け、 保存者、膜面焼熱 軟質、建築土か	近現代	口縁部 片

ニッ川田河川堤防道路														
法量 (cm)														
図番号	遺構番号	種類	形状・ 透視名	胎の形状・ 胎の色	口徑 (mm)	底徑 (mm)	高さ	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ	発付・ 備考	文様	調整・成形・特徴	調査 年度
S-2 第17回 151	2	土器	七輪	良 黄白色	(26.8)		7.6~						内外面：ヨコナデ 内面：口縁部系下から突起物中 部まで黒色地、 胴部黒熱 軟質、珪藻土か	近現代 破片
S-2 第17回 152	2	陶器	火鉢	小石を含む 赤褐色	(23.0)		7.9~						口縁部に2つの穿孔、突起を恥 り付け、ケズ調整 内面→口縁：ヨコナデ 外面→一葉の沈座	近現代 口縁部 破片
S-2 第17回 153	2トレン ナ	土器	不明	1mm 程の小 石、黒赤母を 含む 暗黄灰色			2.7	11.7	4.0				表面内面→上部：黒色	近現代 不明
S-2 第17回 154	2	土製品	目皿	0.5mm~2 mm の 白砂粒・長石 白濁部を含む 灰褐色				11.4	6.4	1.8			表面黒熱あり、炭が付着	近現代 残0.6
S-2 第17回 155	2	土製品	目皿	白砂粒・白黒 部母を含む 淡黄灰色				9.8	4.4	1.3			焼熱なし	近現代 残0.5
S-2 第17回 156	2	土器か	不明	不明				(13.4)	11.2	0.7			外面：灰白色 内面：黄褐色	近現代 不明
S-2 第17回 157	2	土師質 土器	不明	1mm~2 mm 程の小石 を含む 茶褐色			6.1~		最大幅 13.5				内面：ヨコナデ、ケズリ 外面：ケズリ	破片
S-2 第17回 158	2	土師質 土器	不明	黒赤母、白部 母。1mm~ 3mm 程の長 石、8mm 程 の小石を含む 黄褐色				5.0	(8.0)	1.5~ 2.3			内外面：ナデ 外径：(12cm)、内径：(9cm)	破片
S-2 第17回 159	2	土器か	不明	不明				最大長 16.7	最大幅 13.7	0.8			円筒形 外面：灰白色 内面は外面と同色(灰白色) と思われるが胎の付着あり 次に関連する	近現代 不明
S-2 第18回 160	2	漆器	碗			(5.8)	5.6~				朱漆			口縁部 と底縁 一部欠 損
S-2 第18回 161	2	漆器	碗		12.6	4.4	5.5				朱漆			底縁一 部欠損
S-2 第18回 162	2	木製品	建築材					最大長 17.1	最大幅 8.8	最大厚 4.2			榎目	不明
S-2 第18回 163	2	木製品	不明板					25.6	5.7	1.1			板の下部に穿孔1ヶ所	不明
S-2 第18回 164	2	木製品	不明					10.3	3.7	0.7				不明
S-2 第18回 165	2	木製品	無歯下 敷				2.2	16.0~	9.2					残0.6
S-2 第18回 166	2	木製品	歯歯下 敷				2.8	16.6	7.2				榎目	完形
S-2 第18回 167	2	木製品	歯歯下 敷				3.2	2.6	8.9					完形
S-2 第18回 168	2	木製品	歯歯下 敷					22.8	10.4	1.2			歯歯の左側が磨り減っている	一部欠 損
S-2 第18回 169	2	鉄	伊の蓋					18.5	12.2	2.8			全体が焼熱し、磁でおおわれて いる 内側の蓋の接合場所に鐵目の ローザ状の物が全体の2/3ほど 残っている 表に「熊目」とある	近現代 完形
S-2 第18回 170	2	鉄	目皿					12.8	5.4	0.7				近現代 残0.3

二ツ川旧河川堤防遺跡

調査号	遺構番号	種類	図形・ 断面形状 ・名称	断面の 特徴・ 断面の色	法量 (cm)						出土・ 備考	文様	調査・成形・特徴	調査 年度	年代	残存率
					口径 (復元)	底径 (復元)	高さ	長さ (残存)	幅 (残存)	厚さ						
S-2 第18項 171	2	ガラス、鉄	コース ター		6.0	6.0	2.1						口縁の立ち上がり部分がひしゃげている 受け皿の部分はガラスである 立ち上がり部分は鉄		近現代	ほぼ完 全
S-2 第18項 172	2トレン チ	金属製 品	不明			4.1	9.3						見込みの中心に変形がある 底部に「14」と「1906」の刻印			不明

図 版



1. ニツ川旧河川堤防遺跡遠景（西から）



2. ニツ川旧河川堤防遺跡遠景（北から）



1. ニツ川旧河川堤防遺跡遠景（東から）



2. ニツ川旧河川堤防遺跡遺構完掘状況（真上から）



1. 東側壁面土層堆積状況（西から）



2. S-1 完掘状況（南西から）



1. S-1 完掘状況（南から）



2. S-2 完掘状況（北西から）



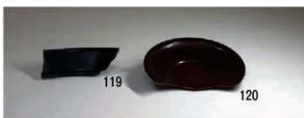
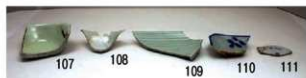
1. S-2完掘状況（南から）

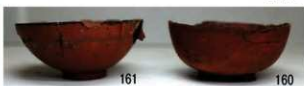


2. 1、3、4トレンチ完掘状況（南西から）









報告書抄録

ふりがな	ふたつかわきゆうかせんていほういせき							
書 名	二ツ川旧河川堤防遺跡							
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名	柳川市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第16集							
編著者名	橋本清美 牧之角健太							
編集機関	柳川市教育委員会							
所 在 地	〒832-8555 福岡県柳川市三橋町正行431							
発行年月日	2023年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°N	°E		(㎡)	
ふたつかわきゆうかせんていほう 二ツ川旧河川堤防 遺跡	ふくおかけんやまがたし みつはしまち 福岡県柳川市三橋町 下百町53番地4	40207	780071	33° 10' 00"	130° 25' 05"	2021.3.8 ～ 2021.3.31	70	河川護岸 整備
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
二ツ川旧河川 堤防遺跡	近世以降の 単独遺跡 (河川堤防)	近世 ～ 近代	河川堤防	陶磁器、土師質土器、 木製品、ガラス製品		近世から近代 旧瀬高往還		

当遺跡は、有明海に面した筑後平野の南西部、筑後川左岸と矢部川右岸に挟まれた標高3.2m程の沖積平野上に位置する旧河川堤防の遺跡である。所在地付近は、近世柳川城から旧薩摩街道上庄宿に向かう旧瀬高往還が二ツ川河川堤防と重複する区間にあたることから、本遺構上端部の硬化面は、旧瀬高往還に伴う道路敷の遺構である可能性がある。遺物は近世陶磁器、白磁、染付、須恵器、土師質土器、瓦、木製品、ガラス製品、金属製品、石製品、樹脂製品、プラスチック、貝、不明遺物が出土している。

二ツ川旧河川堤防遺跡

柳川市文化財調査報告書
第16集

令和5年（2023）3月31日

発行	柳川市教育委員会 〒832-8555 福岡県柳川市三橋町正行431 電話 0944-77-8832
印刷	大同印刷株式会社 〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20 電話 0952-71-8520(代)

